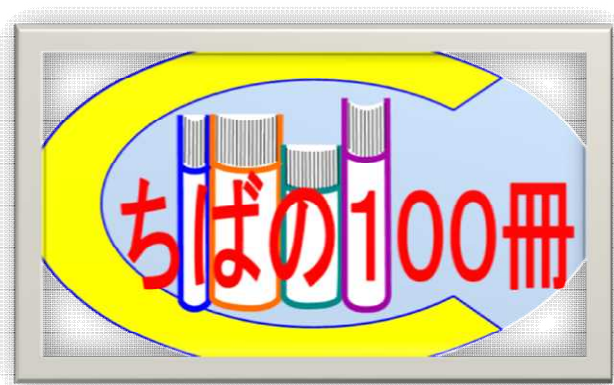




県民の本棚事業報告書

県民の本棚
～であい、ふれあい「ちばの100冊」～

平成23年8月 千葉県立図書館

目次

1	はじめに	2 ページ
2	「県民の本棚」事業計画	3 ページ
3	「県民の本棚」事業報告	4 ページ
4	県立図書館3館巡回展示	9 ページ
5	「県民の本棚」広報活動	10 ページ
	○広報用ポスター	12 ページ
6	県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦図書募集要項等資料	13 ページ
	○～みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦図書募集要項	14 ページ
	○募集要項・ポスター配付先一覧	15 ページ
	○～みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦用紙様式	16 ページ
	○～みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦用紙記載例（一般）	17 ページ
	○～みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦用紙記載例（児童）	18 ページ
	○千葉県立図書館ホームページ掲載の推薦図書リスト	19 ページ
	○～みんなが選んだ「ちばの一冊」～ Q & A	20 ページ
	○県民の本棚選定委員会設置規程	22 ページ
	○推薦図書選定方針	23 ページ
	○～であい、ふれあい「ちばの100冊」～ Q & A	25 ページ
7	県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの100冊」～ 関係リスト	27 ページ
	○～であい、ふれあい「ちばの100冊」～分野別書名リスト	28 ページ
	○～であい、ふれあい「ちばの100冊」～内容紹介リスト	33 ページ
	○～であい、ふれあい「ちばの本」 〔小・中学生から読める本〕リスト	46 ページ
	○～であい、ふれあい「ちばの本」〔高校生向け〕リスト	56 ページ

はじめに

本事業は、昨年が「国民読書年」であること、また、本県において、千葉県教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」の施策に「読書県『ちば』」を推進することや、「千葉県子ども読書活動推進計画（二次）」が策定されたことを受けて、県立図書館がこれらの取組の一環として、１年間という時間をかけて実施してきたものです。

当初一般県民から広く「千葉県らしさ」が表れている図書を推薦していただくということで、どの程度の応募があるか不安はありましたが、児童生徒、教職員を含む学校関係者の協力もあり、結果１，３９０冊の応募となり、昨年１０月２７日の「文字・活字文化の日」に合わせて、推薦理由も含め、県立図書館ホームページにそのすべてを発表しました。

この発表に関しては、従前よりこの中から「千葉県らしさ」が顕著な図書を選定すべきとの声が多かったこともあり、千葉県図書館協議会委員を含む有識者で構成された選定委員会を開催し、選定のための方針及び規準を決定しました。それに基づき、県立図書館の司書が「ちばの１００冊」及び児童生徒向けの「ちばの本」の各リストの原案を作成し、本年３月に選定委員会の承認のもと、「県民の本棚～であい、ふれあい『ちばの１００冊』～という形で結実しました。

今回のリストの特徴としては、「千葉県らしさ」が顕著な図書を絞り込むということで、複数の観点と規準により、１００冊を選定したことが最大の特徴です。

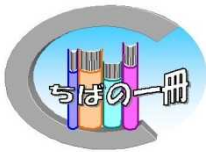
また、児童生徒向けリストについては、１，３９０冊の推薦者による推薦理由をそのまま抜粋させていただき、推薦者の生の声を反映する形をとらせていただきました。これは、推薦者の千葉県に対する郷土愛や図書に対する愛着にあふれているものが多いという理由からこのような体裁をとったものです。

さらに、児童生徒向けリストのうち小中学生については、保護者・教職員が読んで子どもたちに薦められるようなものに、高校生については、自ら読み親しめるよう配慮しました。

千葉県立図書館では、今回の選定リストがまとまったことにより、県民の皆様に見ええる形ということで、巡回展示も併せて実施しました。今後とも、本事業の結果を多くの県民の皆様に応えていくという使命感を持って、一層の広報活動に努めてまいります。

平成２３年８月

千葉県立図書館



「県民の本棚」事業計画

目 的

国民読書年の機運を高めるとともに、本県の特徴ある読書活動推進の一環として、県立図書館が、県民から広く「千葉県らしさ」が表れている図書の推薦を募集、リストを作成し、リストの中から特に「千葉県らしさ」が顕著な図書を選定し、県民に紹介する。

事業の流れ

千葉県の自然・歴史・文化、産業・経済、人物、千葉県を舞台としている作品、千葉県にゆかりのある著者の作品などを想定。特に図書の分野は問わない。漫画も可。

県立図書館及び市町村立図書館来館者、公私立学校生徒・職員等に、直接PRするとともに、県立図書館及び県教育委員会ホームページ等の媒体等で存在を周知し、広く県民等からの図書の推薦を受ける。

○広報開始
6/30（水）～

県立図書館、市町村立図書館に直接提出、又は郵送、電子メールで推薦図書の募集を行う。

原則推薦図書全てをリストに

推薦リストの作成
事務局中心に3館分担

○募集期間
7/6（火）～
9/7（火）
* 学校関係は
9/30（木）
まで延長

推薦リスト（概要版及び詳細版）を県立図書館及び県教育委員会ホームページで公表するとともに、関係諸機関に文書で配付する。

○リスト
発表
10/27（水）

10月27日（水）【文字・活字文化の日】からの読書週間に合わせて、千葉県らしい読書力向上の啓発活動を推進する。

○読書週間
10/27（水）～
11/9（火）

千葉県図書館協議会委員及び県立図書館各館長により構成された選定委員会を開催し、発表リストから特に千葉県らしさが顕著な図書を、選定委員会において選定する。

選定方針、選定規準により、事務局にて選定原案を作成

○選定委員会
1回 12月中旬
2回 3月下旬

選定結果を県立図書館及び県教育委員会ホームページで公表するとともに、県立3館における選定図書の巡回展示開始。

○選定発表
4/13（水）
* 選定図書については分野等考慮して100冊等の形で発表

「県民の本棚」事業報告

1 事業の立ち上げ

千葉県立図書館では、本年が「国民読書年」であり、県民に読書の楽しさや大切さについての理解と関心を深め、読書県「ちば」としての機運を高めていく絶好の機会として、県立3館の協働事業「県民の本棚」の実施を平成22年度当初に決定した。

読書県「ちば」の推進については、前年度末に策定された「みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」（千葉県教育振興基本計画）において、読書県「ちば」を推進することが盛り込まれており、

- （1）家庭や地域における子どもの読書活動の支援。
- （2）学校等における読書活動の推進。
- （3）図書館における読書活動の充実。

などが、重点的な取組として掲げられているところである。また、時期を同じくして、「千葉県子どもの読書活動推進計画（第二次）」がスタートしたことなども踏まえ、県民に「国民読書年」を周知し、PRするとともに、本県の読書活動の推進を図るため、

- （1）県立図書館3館において、県民の目で見えた「千葉県らしさ」が表れている
図書を推薦してもらう。
- （2）市町村立図書館、学校図書館にも協力を呼びかけ、推薦してもらう。
- （3）推薦された図書すべてを、「文字・活字文化の日」に発表する。
- （4）推薦された図書については、最終的に選定委員会で選定し、発表する。

これらを柱立とした当初計画案を検討することとなった。

具体的な実施に関する課題としては、

- （1）事業の企画運営及び推薦にかかる要件等の作成などについて、事務局を県立西部図書館協力課とすること。
- （2）県立3館でワーキンググループを設置
- （3）選定委員会の人選。
- （4）広報活動と集約方法。
- （5）学校との連携方法。

などが挙げられた。

これら課題解決に向けたアイデアとしては、

- （1）広く県民の目線で選定するため、選定委員会には、千葉県図書館協議会委員にも加わっていただく。
- （2）選定する図書の数を100冊程度とする。
- （3）県民投票をもとに選定された「ちば遺産100選」「ちば文化的景観」などの例を参考とし、選定方針を検討する。
- （4）事業を通じて、市町村立図書館や学校図書館との連携をより一層密にし、選定結果の

公表のみに止まらず、今後の県内読書活動の推進と県立図書館を核とする市町村立図書館及び学校図書館の利用促進を図る。

などが考えられた。

以上のことを考慮し、「県民の本棚～みんな選んだ『ちばの一冊』」事業を正式にスタートさせることとなった。これに伴い、事務局を西部図書館協力課に設置することが決まり、併せて県立図書館3館でワーキンググループを立ち上げた。

このワーキンググループで事業スキームを作成し、県立図書館が一致協力し、事業の推進にあたることとなった。

2 推薦図書募集要項の発表

事業決定を受けて、ワーキンググループでの原案作成、県立図書館館長会議等を経て、募集要項を6月30日に報道発表するとともに、千葉県立図書館ホームページに発表した。募集要項は、千葉県公共図書館及び県下全小・中・高校・特別支援学校にも配付を行った。募集要項の内容は以下のとおりとした。

(1) 趣旨

読書を通して郷土を再発見してもらうよう、県民から「千葉県らしさ」が表れている図書を推薦してもらい、この取組により本県の読書活動の一層の推進を図る。

(2) 募集期間

平成22年7月6日～9月7日まで。

(3) 応募方法

県民からの募集の利便性や気軽に応募できるよう、県立図書館や最寄りの市町村立図書館で提出できるようにしたほか、郵送やメールでの提出も可とした。

(4) 応募資格

県内在住又は在勤、在学者として、年齢制限は問わないこととした。

(5) 推薦規定

推薦冊数に制限を設けないこと、また、推薦図書については、「千葉県らしさ」が表れている図書とし、千葉県の自然・文化・歴史、産業・経済、人物のほか、千葉県を舞台にしている作品、千葉県にゆかりのある著者の作品とし、分野は問わず、雑誌を除くものとした。

(6) 発表

県民から推薦された図書をリストにし、平成22年10月27日の「文字・活字文化の日」に、千葉県立図書館ホームページに掲載することとした。また、リスト発表後、特に「千葉県らしさ」が顕著な図書を、選定委員会で選定し、発表することとした。さらに、選定図書については、県立図書館3館において、巡回展示することも明記した。

3 学校関係者への募集期間の延長と応募状況

当初募集期間を7月6日から9月7日までとしたところであったが、児童生徒、教職員等学校関係者の応募が、夏季休業中と重なることに配慮すべきという意見を重視し、学校関係者の応募に限り、9月30日まで延長することを決定し、県下全学校と千葉県公共図書館に対し、8月下旬に募集期間の延長を通知した。これらについては、県教育庁教育振興部生涯学習課、指導課、特別支援教育課、県総務部学事課、千葉市教育委員会指導課、千葉県高等学校校長協会、千葉県高等学校図書館部会等の協力支援のもと、その後の学校関係者から多くの応募につながる事となった。

最終的な応募状況については、

- (1) 県立中央図書館集計分 276 冊。
- (2) 県立西部図書館集計分 328 冊。
- (3) 県立東部図書館集計分 200 冊。
- (4) 県内学校関係者集計分 586 冊。

となり、合計 1,390 冊の応募となった。

また、8月18日には、千葉日報1面記事で「県民の本棚」の特集記事が掲載されるなど、地道な広報活動により、県民への事業の周知も応募数の伸びにつながる結果となった。

4 推薦図書リストの発表

10月27日に集約した推薦図書を千葉県立図書館ホームページに発表した。リストについては、以下のとおりとした。

(1) リストの配列

①対象読者層からA【子ども】[小学生以下と中高生]、B【一般】[大学生と一般]に分類。

②A・B別に次の分野にまとめる。

- a 千葉県の自然・歴史・文化に関するもの
- b 千葉県の産業・経済に関するもの。
- c 千葉県の人物に関するもの。
- d 千葉県を舞台にしている作品。
- e 千葉県にゆかりのある作者の作品。

③記載事項は、「書名」、「著者名」、「出版社」「推薦の理由」、「対象読者層」とした。

(2) リストの内訳 (A-a～B-e)

①A【子ども】合計 1,225 冊

- a 分野 400 冊 (32.7%)
- b 分野 68 冊 (5.6%)
- c 分野 147 冊 (12.0%)
- d 分野 286 冊 (23.3%)
- e 分野 324 冊 (26.4%)

②B【一般】合計1, 315冊

- a 分野 418冊 (31.8%)
- b 分野 86冊 (6.5%)
- c 分野 161冊 (12.2%)
- d 分野 317冊 (24.1%)
- e 分野 333冊 (25.5%)

A・B合計2, 540冊となるが、これは対象読者層や図書の分野に複数選択されているものを、再掲しており、カウントしているために上記冊数となっているものである。

(3) 推薦者の内訳 合計1, 390名

①性 別

- ア 男 性 489名 (35%)
- イ 女 性 816名 (59%)
- ウ 未記入 85名 (6%)

②年 代

- ア ～10代 373名 (27%)
- イ 20代 83名 (6%)
- ウ 30代 127名 (9%)
- エ 40代 313名 (23%)
- オ 50代 364名 (26%)
- カ 60代～ 46名 (3%)
- キ 未記入 84名 (6%)

このことから、女性の応募が約6割を占めていること、年代別では～10代と50代が多く、40代がそれに続いており、非常に興味深い分布となった。

また、推薦図書リストの発表に伴い、これ以降の選定図書の発表についても、この機会に明確化した。

推薦図書リストから、特に「千葉県らしさ」が表れている図書を、千葉県図書館協議会委員及び千葉県立図書館長により構成される選定委員会で選定し、その結果を平成23年4月に発表することとした。

さらに、選定図書をその後に、千葉県立図書館の巡回展示で紹介するとともに、県内公共図書館及び学校と連携を図りながら、広く県民の郷土を愛する心の醸成や読書活動の普及などの充実に努めることなどを発表した。

5 選定図書と巡回展示

推薦図書リストから、100冊を選定するものとした。また、読書県「ちば」の推進、子どもの読書の推進には、多くの材料提供が必要なことから、推薦図書の中から児童生徒向けのリストアップを図り、紹介することとした。

このため、選定委員会では、選定の観点と選定規準を以下のとおりとした。〈 〉内は選定規準を示す。

(1) 郷土の特徴を有し、充実した読書体験が得られるものである。

〈千葉県の記事が多く、推薦の理由も正当であり、かつ内容に深みがある〉

(2) 郷土の特徴を有し、多くの県民に興味や関心を持たせるものである。

〈千葉県の記事が多く、かつ多くの図書館で所蔵されている〉

(3) 作者や作品が千葉県と関わりがあり、郷土の再発見、再認識に繋がるものである。

〈千葉県にゆかりがあり、郷土に誇りや愛着を持つことができる〉

以上の観点と選定規準により選定がなされるとともに、児童生徒向けの選定には、子ども向け選定図書については、選定の観点と選定基準に加えて、児童生徒に深い感動や豊かな心の育成に資するものであるとともに、将来の目標や生き方を考えさせることができる図書であることに留意した。

以上のような経過を経て、県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの100冊」～、県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの本」～〔小・中学生から読める本〕、県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの本」～〔高校生向け〕と3本のリストを平成23年4月13日に千葉県立図書館ホームページに発表することができた。

また、4月16日から7月31日の間、県立図書館3館ですべてのリストの図書の巡回展示を行った。

本事業は、県民による推薦図書の募集に始まり、県民の推薦による県民のための選定図書の発表という形をとったが、広く県民の郷土を愛する心の醸成や読書活動の推進に役立てるという意味合いからも、今後とも本リストを県民へ周知していくとともに、読書県「ちば」の一層の推進に資するよう努力していかなければならない。

県立図書館 3 館巡回展示

「県民の本棚」事業で選定した図書を広く県民へ周知するため、千葉県立図書館 3 館において図書の巡回展示を行った。

1 展示資料

- (1) 県民の本棚～であい、ふれあい、「ちばの100冊」～
 - (2) 県民の本棚～であい、ふれあい、「ちばの本」〔小・中学生から読める本〕
 - (3) 県民の本棚～であい、ふれあい、「ちばの本」〔高校生から読める本〕
- ・上記3本のリストに掲載された図書160冊を展示した。
 - ・リスト間で重複している図書については、1冊を展示した。

2 日程

- (1) 県立西部図書館 平成23年4月16日（土）～5月17日（火）
- (2) 県立東部図書館 平成23年5月21日（土）～6月14日（火）
- (3) 県立中央図書館 平成23年6月18日（土）～7月31日（日）

3 展示方法等

閲覧室に設けた展示コーナーにおいてリストを配布するとともに、図書を展示し、図書館の利用者が自由に手にとって閲覧できるようにした。

また、各図書には、当展示の図書であることがわかりやすいよう、リスト名とテーマ名を表示した帯をつけた。展示棚には、テーマ名の見出しをつけ、テーマごとに展示した。

なお、展示図書は、できるだけ多くの方に現物を見てもらいたいと考え、期間中は貸出しをせず、館内で利用してもらうこととした。

(巡回展示の様子)



西部図書館



東部図書館



中央図書館

「県民の本棚」の広報活動

本事業の展開において、推薦図書募集開始から、選定図書の発表まで、県民への周知を十分図るために、様々な広報活動を行った。本事業は、県民が主体となるものであるため、広報活動の在り方は、終始課題となったところであり、また、本事業が予算を伴った事業ではなかったため、自ずと出来ることは限られた感があるものの今後の参考に供するため、ここにその概要を記載することとした。

平成22年度

- 1 5月17日(月) 千葉県高等学校教育研究会図書館部会総会で趣旨説明
- 2 6月15日(火) ロゴマーク決定
- 3 6月20日(日) 推薦用紙提出用メーリングリストの開設
- 4 6月24日(木) ポスター完成〈12ページ資料参照〉
- 5 6月30日(水) 報道発表(募集要項、県内読書施設一覧、推薦用紙等)
- 6 6月30日(水) 県立図書館ホームページへ掲載
- 7 6月30日(水) 私立学校に要項、ポスター発送、書店商業組合にポスター発送
- 8 6月30日(水) 東部図書館館内ポスター掲示、推薦用紙50部配布
- 9 7月1日(木) 県内小・中・高校・特別支援学校に要項、ポスター発出(千葉市含む)(指導課、特別支援教育課、学事課経由)
- 10 7月1日(木) 県内読書施設等へ募集要項等配付(協力車にて順次発送)
- 11 7月6日(火) 西部図書館館内応募用紙提出ポスト設置
- 12 7月初旬 中央図書館受付、職員玄関に受入ボックス設置
- 13 7月7日(水) 第1回図書館協議会で趣旨説明並びに選定委員会設置了承
- 14 7月7日(水) 千葉県高等学校長協会第3回理事会及び連絡協議会で趣旨説明
- 15 7月13日(火) 県庁内ホームページお知らせ欄記事掲載
- 16 7月23日(金) 県教委ニュース記事掲載
- 17 7月30日(金) 船橋市主要ターミナル等「みんなの掲示板」へA2版ポスター掲示18カ所)
- 18 8月初旬 東部図書館応募用紙30部追加配布
- 19 8月11日(水) 公立図書館と学校の連携を図るための研修会で募集期間延長の告知
- 20 8月中旬 東部図書館「県民の本棚」関連本をピックアップし、入口に展示
- 21 8月17日(火) 報道発表
- 22 8月18日(水) 千葉日報1面記事掲載
- 23 8月19日(木) 県庁内ホームページお知らせ欄記事掲載(再掲)

- 24 8月19日(木) 新京成八柱駅、常磐平駅チラシ(裏面推薦用紙)各50部配置
- 25 8月19日(木) 西部図書館来館者チラシ(裏面推薦用紙)100部配布
- 26 8月20日(金) 新京成電鉄松戸駅チラシ(裏面推薦用紙)50部配置
- 27 8月21日(土) 西部図書館サイエンスカフェ出席者チラシ(裏面推薦用紙)
40部配布
- 28 8月22日(日) 西部図書館来館者チラシ(裏面推薦用紙)100部配布
- 29 8月24日(火) 学校関係募集期間延期文書の発出～(指導課、特別支援教育課、
学事課経由)
- 30 8月25日(水) 地域新聞社西部図書館取材
- 31 8月26日(木) 千葉市学校関係募集期間延期文書の発出
- 32 9月 2日(木) 千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会ホームページに「県民
の本棚」告知掲載
- 33 9月 4日(土) 関係市町村立図書館に学校募集延期のお知らせメール発信
- 34 9月 7日(火) 関係市町村立図書館に学校募集延期の事務連絡文書の発出開始
- 35 9月 8日(水) 県立図書館ホームページ「県民の本棚」学校関係者の期間延長に
ついて掲載
- 36 10月 1日(金) 地域新聞社「国民読書年と県民の本棚」記事掲載(11月まで県
内各版)
- 37 10月26日(火) 報道発表
- 38 10月27日(水) 県立図書館ホームページ・県教委ホームページにリスト掲載
- 39 10月28日(木) ～市町村立図書館、学校、関係機関にリストの送付
- 40 11月19日(金) 教育広報誌「夢気球V01. 41」記事掲載
- 41 12月 1日(水) 県教委ニュースUP

平成23年度

- 42 4月12日(火) 報道発表
- 43 4月13日(水) 県立図書館ホームページへリスト掲載
- 44 4月13日(水) 県内読書施設等、小・中・高校・特別支援学校に発表文書発出



県民の本棚 ～みんなが選んだ「ちばの一冊」～

2010
国民読書年

推薦図書募集

今年は、国民読書年。県立図書館では、読書県「ちば」の推進の一環として、「千葉県らしさ」が表れている図書を県民の皆様から募集し紹介していきます。

応募資格

- ★県内に在住の方、
在勤・在学の方
- ★年齢は
問いません

募集期間 募集中

平成22年
7月6日(火)
～
9月7日(火)

応募方法

- ★図書館へ提出（県立図書館のほか、推薦用紙の置いてある県内読書施設へ）

「千葉県らしさ」とは

- 本県に関する
- ★自然・歴史・文化
 - ★産業・経済
 - ★人物 のほか
 - ★本県が舞台の作品
 - ★本県ゆかりの著者の作品

発表

- ★平成22年10月27日(水)にリストを発表します
- ★特に千葉県らしさが表れている図書をリストから選定し、県立図書館の巡回展示等で紹介します

推薦に関する制限

- ★分野は問いません
- ★雑誌は除きます

問い合わせ先

県立西部図書館
「県民の本棚」事務局
電話 047-385-4133
メールアドレス
(問い合わせ、提出先兼用)
hondana@mz.pref.chiba.lg.jp

詳しくは県立図書館、県内読書施設にある推薦図書募集要項をご覧ください。

☆千葉県立図書館ホームページ

千葉県立図書館

検索

アクセスして
ください

県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」～推薦図書関係資料

- 県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」～推薦図書募集要項 * 1
- 県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」募集要項・ポスター配付先一覧 * 2
- 様式 県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」～推薦用紙 * 3
- 様式 記入例（一般向け） * 4
- 様式 記入例（児童向け） * 5
- 千葉県立図書館ホームページ掲載の推薦図書リスト * 6
- 県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」～ Q&A
- 県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」選定委員会設置規程
- 県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』～推薦図書選定方針
- 県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの100冊」～Q&A

* 1 平成22年6月30日に発表した推薦図書募集要項。

* 2 募集要項・ポスター配付先及び配付数データ。

* 3 募集要項に添付した推薦用紙。

* 4 同上記載例（一般向け）。

* 5 同上記載例（児童向け）。

* 6 平成22年10月27日付け千葉県立図書館ホームページ掲載リスト（部分）



県民の本棚

～ みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦図書募集要項

1 事業名

県民の本棚 ～ みんなが選んだ「ちばの一冊」～

2 趣 旨

国では、本年を「国民読書年」とし、読書を推奨する取組を進めています。また、本県では、「読書県『ちば』」を推進することとしています。県立図書館では、これらの取組の一環として、読書を通して郷土を再発見していただけるよう、県民の皆様から「千葉県らしさ」が表れている図書を推薦していただくこととしました。この取組を通して、読書活動の一層の推進を図ります。

3 募集期間

平成22年7月6日（火）から平成22年9月7日（火）まで

4 応募方法

- (1) 県立図書館ホームページ（<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>）から様式をダウンロードしていただくか、又は各県立図書館備え付け推薦用紙、各市町村立図書館等の読書施設（別紙記載）に配布された推薦用紙（別紙様式参照）をご利用ください。
- (2) 県立図書館（中央・西部・東部）に推薦用紙を直接ご提出いただくか、推薦用紙の置いてある市町村立図書館にご提出ください。
- (3) 下記の8に記載の千葉県立西部図書館内「県民の本棚」事務局まで、郵送、メールいずれかの方法でご提出ください。

5 応募資格

千葉県内に在住又は在勤・在学している方で、年齢は問いません。

6 推薦規定

- (1) 推薦用紙1枚につき、1点とします。
- (2) 「千葉県らしさ」が表れている図書とは、千葉県の自然・歴史・文化、産業・経済、人物のほか、千葉県を舞台にしている作品、千葉県にゆかりのある著者の作品とし、分野は問いませんが、雑誌は除きます。
- (3) 推薦用紙に記載された文章等については、紹介させていただくことがあります。また、著作権に関する全ての権利は、千葉県に帰属するものとします。
- (4) メール等による推薦者の個人情報、は一切使用しません。

7 発表

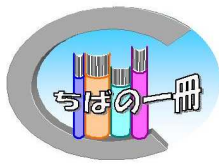
- (1) 推薦いただいた図書のリストを10月27日（水）に県立図書館ホームページ及び県教育委員会ホームページに発表するとともに、県内関係機関、各図書館、県立学校等へ文書配付します。
- (2) リスト発表後、特に「千葉県らしさ」が表れている図書を、県立図書館長等により構成される選定委員会で選定し、発表します。
- (3) 選定された図書は、県立図書館（中央・西部・東部）の巡回展示等で紹介します。

8 問い合わせ先（郵送、メールでの提出先）

〒270-2252 松戸市千駄堀657-7
千葉県立西部図書館内「県民の本棚」事務局
電 話 047-385-4133
メールアドレス hondana@mz.pref.chiba.l.jp

「県民の本棚～みんなで選んだちばの一冊」募集要項・ポスター配付先一覧 22.0707

市町村立図書館・読書施設				
配付先	内 訳(各要項20部・ポスター2部)		要項	ポスター
千公図加盟館(県立を除く)	87施設		1740	174
		小計	1740	174
学校				
配付先	内 訳(各要項1・ポスター1)		要項	ポスター
葛 南教育事務所管内	小学校150 中学校69 特別支援2		221	221
東葛飾教育事務所管内	小学校142 中学校70		212	212
北 総教育事務所管内	小学校196 中学校76		272	272
東上総教育事務所管内	小学校 98 中学校39		137	137
南房総教育事務所管内	小学校140 中学校71		211	211
千葉市教育委員会管内	小学校121 中学校57 特別支援 2		180	180
県立中・高等学校	高 校148 中学校 1 (定時制含む)		149	149
県立特別支援学校	34(分校、分教室含む)		34	34
市立高等学校	8(定時制含む)		8	8
私立小・中・高等学校	94(小・中・高全)		94	94
		小計	1518	1518
教育機関				
配付先	内 訳		要項	ポスター
教育事務所			5	5
さわやかちば県民プラザ			1	1
総合教育センター			1	1
子どもと親のサポートセンター			1	1
県立美術館			1	1
県立中央博物館			4	4
県立産業科学館			1	1
県立関宿城博物館			1	1
自然の家				5
スポーツセンター				1
国際水泳場				1
東総運動場				1
射撃場				1
房総のむら				1
県教育庁各課			20	20
		小計	35	45
その他				
配付先	内 訳		要項	ポスター
小中校長会			2	2
高等学校長協会			2	2
高等学校長協会理事会			145	145
私立学校協会			1	1
千葉県書店商業組合			5	200
		小計	155	350
	当初配付部数	合計	3448	2087



様 式

県民の本棚

～ みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦用紙

書 名			
著 者 名			
出 版 社			
図 書 の 分 野*	☐ 自然・歴史・文化に関するもの ☐ 産業・経済に関するもの ☐ 人物に関するもの ☐ 千葉県を舞台にしている作品 ☐ 千葉県にゆかりのある著者の作品		
推 薦 の 理 由 を お 書 き い た だ け る 方 は、 2 0 0 字 以 内 で 簡 単 に お 書 き く だ さ い。			
読んでも らいたい 読者層*	☐ 小学生以下 ☐ 中高生 ☐ 大学生 ☐ 一般 (複数チェック可)		

ご推薦いただいた方へお尋ねします。

性 別*	☐ 男性	年 代*	☐ ～10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代	
	☐ 女性		☐ 50代 ☐ 60代～	
区 分*	☐ 学生	在住又は在勤・在学 している市町村名		
	☐ 一般			

* チェック欄については、該当する箇所には印を付けて、ご提出ください。
(この推薦用紙は返却いたしません。)



様 式
【記入例】

県 民 の 本 棚
～ みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦用紙

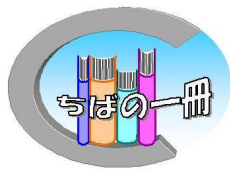
書 名	地層は語る		
著 者 名	千葉 太郎		
出 版 社	〇 〇出版		
図 書 の 分 野*	☒ 自然・歴史・文化に関するもの ☐ 産業・経済に関するもの ☐ 人物に関するもの ☐ 千葉県を舞台にしている作品 ☐ 千葉県にゆかりのある著者の作品		
推 薦 の 理 由 を お 書 き い た だ け る 方 は、200字以内で簡単に書きください。	首 都 に 隣 接 し、交 通 網 も 整 備 さ れ、発 展 を 続		
	け る 千 葉 県 だ が、有 史 以 前 か ら 陸 と 海 と が 攻		
	め ぎ 合 い、浸 食 作 用 の 長 期 に 及 ぶ 結 果 に よ っ		
	て、今 日 の よ う な 三 方 を 海 に 囲 ま れ た 地 形 が		
	誕 生 し た。ま た、本 書 は、な だ ら か な 地 勢 に		
	つ い て も、誰 も が 理 解 し や す い よ う に 語 っ て		
	い る。特 に 内 陸 に 見 ら れ る 地 層 か ら は、風 土		
	の 熟 成 が 如 実 に 感 じ ら れ、大 変 興 味 深 い。		
千 葉 県 に 住 み 暮 ら す 多 く の 人 に、こ の 事 実 を			
知 っ て も ら い た い と 感 じ、こ こ に 推 薦 す る。			
読んでもらいたい読者層*	☐ 小学生以下 ☒ 中高生 ☐ 大学生 ☐ 一般 (複数チェック可)		

ご推薦いただいた方へお尋ねします。

性 別*	☒ 男性	年 代*	☐ ～10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☒ 40代
	☐ 女性		☐ 50代 ☐ 60代～
区 分*	☐ 学生	在住又は在勤・在学 している市町村名	〇〇市
	☒ 一般		

チェック欄については、該当する箇所にレ印を付けて、ご提出ください。

(この推薦用紙は返却いたしません。)



様 式

県 民 の 本 棚

【記入例：児童用】

～ みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 推薦用紙

書 名	調べてみよう！ ちばのふしぎ		
著 者 名	千葉 花子		
出 版 社	〇 〇出版		
図 書 の 分 野*	☒ 自然・歴史・文化に関するもの ☐ 産業・経済に関するもの ☐ 人物に関するもの ☐ 千葉県を舞台にしている作品 ☐ 千葉県にゆかりのある著者の作品		
推 薦 の 理 由 を お 書 き い た だ け る 方 は、 2 0 0 字 以 内 で 簡 単 に お 書 き く だ さ い。	千葉の有名なものって、皆さんはどんなものを思い浮かべますか？		
	私だったら菜の花や落花生などが思い浮かびます。		
	この本には、千葉県の有名な産物のほか、日本や世界に誇れる産業・観光など		
	が、観光などが、小学生にもわかりやすく書かれています。写真やグラフ・図		
	などもたくさん使われているので見るだけでも楽しめる1冊です。		
	千葉の発展のために努力をしてきた人々の話や、今まで私が知らなかった千葉		
	の不思議がいっぱいつまっています。		
	小学生だけでなく一人でも多くの人に読んでもらって、千葉のことを好きになっ		
てもらいたいです。			
読んでも らいたい 読者層*	☒ 小学生以下 ☒ 中高生 ☒ 大学生 ☒ 一般 (複数チェック可)		

ご推薦いただいた方へお尋ねします。

性 別*	☐ 男性	年 代*	☒ ～10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代	
	☒ 女性		☐ 50代 ☐ 60代～	
区 分*	☒ 学生	在住又は在勤・在学 している市町村名	〇 〇市	
	☐ 一般			

* チェック欄については、該当する箇所には印を付けて、ご提出ください。

(この推薦用紙は返却いたしません。)

千葉県立図書館ホームページ掲載の推薦図書リスト



県民の本棚～ みんなが選んだ「ちばの一冊」～ の推薦図書の発表について



県民の本棚
～みんなが選んだ「ちばの一冊」～

2010
国民読書年

千葉県立図書館では、「国民読書年」及び「読書県『ちば』」を推進する取組の一環として、県内公共図書館及び学校と連携し、「千葉県らしさ」が表れている図書の募集を行った結果、児童生徒をはじめ幅広い年齢層の県民の皆様から1,380冊の推薦をいただきました。

そこで、10月27日の「文字・活字文化の日」に合わせて、推薦図書リストを千葉県立図書館ホームページに発表します。今後、このリストから特に「千葉県らしさ」が顕著な図書を選定し、発表するとともに、千葉県立図書館での巡回展示等を企画し、広く県民の皆様の郷土を愛する心や読書活動の普及などの充実に努めてまいります。

推薦図書リスト

◆【子ども】【小学生以下と中学生】

- a 自然・歴史・文化に関するもの[Excel形式(〇〇KB)]
- b 産業・経済に関するもの[Excel形式(〇〇KB)]
- c 人物に関するもの[Excel形式(〇〇KB)]
- d 千葉県を舞台にしている作品[Excel形式(〇〇KB)]
- e 千葉県にゆかりのある作者の作品[Excel形式(〇〇KB)]

＊図書の分野や対象読者層について、複数選択のあるものは、重複して各リストに掲載しています。
＊リストは、推薦用紙に記載された内容をそのまま掲載しています。

Microsoft Excel - A-axis						
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)						
75%						
	B	C	D	E	F	G
	書名	著者名	出版社	推薦の理由	以下	小中高
1					下	生
1	青木こんようの生がい	ふめい	くもん出版社	まず、ぼくがどうしてこの人にきょうみを持ったかという名字が同じだったからです。農作物であるさつまいもを関東各地に広め天明の大きな命の時は、多くの人々の命をすくった人ともいわれています。 とくに、いも神様として有名です。 歴史上でも有名な人なのでみなさんも調べてみてください。		○
2	あの夏、西の風が吹いた	小林信也	ベースボールマガジン社	学校統合によって、30余年あまりの歴史に幕を閉じ、校名が消えた市立銚子西高。本書は、夏の甲子園にも出場したこともある同校野球部の青春群像と卒業後の人生を追った感動のノンフィクション。丘の上のグラウンドで野球に打ち込んだ少年少女たちの、切なくも爽やかな青春ストーリーです。10代の頃の忘れかけていた遠い音を思い出しながら、胸が熱くなり読んだ作品です。		○

県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」～ Q & A

- Q 1 今回の推薦リストの発表は、今後の選定に至る途中経過と考えてよろしいですか。
- A 1 そのとおりです。国民読書年の機運を高めることも含め、今回推薦者全員の推薦リストを「文字・活字文化の日」に合わせて発表することにしました。今後本データをベースに「県民の本棚」の選定に移行していきます。
- Q 2 募集期間が延長されたのはなぜですか。
- A 2 当初平成22年7月6日（火）～9月7日（火）までの2か月間としましたが、児童生徒を含む学校関係者については夏季休業と重なったため、9月30日（木）まで募集期間の延長を行いました。
- Q 3 応募冊数は1390冊とありますが、学校からの応募状況の具体数を教えてください。
- A 3 匿名のため、一般の推薦者に含まれてしまったものもありますが、事務局では、約600冊の応募があったと把握しています。市町村教育委員会や学校司書の方にも多数協力していただきました。
- Q 4 児童生徒の応募はどの程度ですか。
- A 4 年代別内訳から「～10代」を見ると、約400名弱程度の応募があったと考えています。
- Q 5 応募資格に県内在住又は在勤・在学とありましたが、市町村別の人数は把握していますか。
- A 5 推薦用紙の当該記載欄未記入を含め概ね把握しています。千葉市、銚子市、市川市、松戸市、匝瑳市、船橋市、市原市などからの応募が上位となっていました。
- Q 6 「千葉県らしさ」が表れている図書について、漫画などはあったのですか。
- A 6 千葉県に関連している（内容、著者等）ものなら、漫画であっても推薦対象としましたので、漫画の推薦もありました。ただし、千葉県の歴史などを扱った歴史物などが主なものでした。
- Q 7 グルメ本や観光案内などはありましたか。
- A 7 分野は問わないとしていたので、千葉県関連の図書として複数が入っています。
- Q 8 リストはどのような形になるのでしょうか。
- A 8 Excel ファイルで図書の分野ごとの掲載となります。

Q 9 書誌事項の確認は行っていないとのことですが、それはどのようなことですか。

A 9 今回は応募された方の推薦内容を尊重するため、あえて書誌事項の確認は行いませんでした。

「書誌事項の確認をしない」とは、書名、著者名、出版社などの情報に誤りがないかの確認や書名情報の統一を行っていないということです。→選定にかかる作業の際、すべて確認します。

Q 10 今回のリストの特徴はなんですか。

A 10 特に推薦の理由などは、推薦者の千葉県に対する郷土愛や図書に対する愛着にあふれているものが、多くあり、多くの方にお読みいただきたいと考え、あえて全文を記載することとしました。

Q 11 リストから特に「千葉県らしさ」が表れている図書を選定するとのことですが、誰が選定するのですか。

A 11 千葉県図書館協議会委員及び県立図書館館長による選定委員会を設置して選定します。

Q 12 選定された図書の発表と形式はどのようなものですか。

A 12 今後、県民の皆様の郷土を愛する心や読書活動の普及につながるよう、県民の方に分かりやすく馴染みやすい形で23年4月に発表します。また、県外の方にも千葉県を知ってもらうよい機会となるよう選定していきたいと考えています。さらに、選定図書の形式は、分野の区分や内容についても本リストを踏まえつつ、より良い形に改めていきたいと考えています。

Q 13 発表後に県立図書館の巡回展示等で紹介するとありますが、時期はいつですか。

A 13 平成23年度に県立図書館3館で順次実施していく予定です。

Q 14 県内公共図書館と学校との連携を図るとありますが、どのような連携又は周知を具体的に図っていくのですか。

A 14 今回の募集でも、県内公共図書館や学校と連携協力した結果、今回の応募冊数につながりました。

「県民の本棚」関連については、選定図書のまとめを報告書などの形で、関係機関に配付し、多くの方に更なる関心を持っていただくとともに、学校での読書活動の充実のための資料などとして、わが郷土を紹介したこれらの本が積極的に活用されるよう、県立図書館として広く広報に努めていきたいと考えています。

県民の本棚～みんなが選んだ「ちばの一冊」～選定委員会設置規程

（目的）

第1条 本県の読書活動の更なる推進を目指し、県民から推薦された「千葉県らしさ」が表れている図書の中から、選定方法及び選定方針等の策定を行い、「千葉県らしさ」が顕著な図書を選定するため、「県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』」選定委員会（以下「選定委員会」という。）を設置する。

（委員）

第2条 選定委員会は、委員13名以内で組織する。

- 2 委員は、千葉県図書館協議会委員及び千葉県立中央図書館長、西部図書館長、東部図書館長とする。
- 3 委員の任期は、平成22年度末までとする。

（運営）

第3条 選定委員会の委員長は、千葉県図書館協議会議長とし、副委員長は、千葉県立中央図書館長とする。

- 2 委員長は、選定委員会を統括し、副委員長は、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代行する。

（事務局）

第4条 選定委員会の事務局は、千葉県立西部図書館において処理する。

（その他）

第5条 この規程に定めるもののほか、選定委員会運営に関し必要な事項は別にこれを定める。

附則

この規程は、平成22年12月15日から施行する。

県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』～推薦図書選定方針

「県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』～」推薦図書の選定方針を次のとおり定める。

1 選定冊数

- (1) 10月27日発表のリストのうち、選定冊数を100冊とする。(以下100冊という)
- (2) リストから、子ども向けの選定図書*を小中学校及び高校別に作成する。(選定冊数は未定)

*100冊と重複があってもよいものとする。

2 選定区分に関する事項

- (1) 100冊については、リストの図書の分野を参考としつつ、県立図書館が独自の分野としてまとめた選定区分で作成する。なお、順位等はつけないものとする。
- (2) 子ども向けの選定図書については、小中学校・高校別に作成し、順位等はつけないものとする。

3 選定手順

- (1) リストのうち、推薦図書すべてについて書誌事項の確認を行い、特定できるものを選定対象とするとともに、併せて県立図書館所蔵の有無の確認を行う。
- (2) 県立図書館員が、選定の観点*と選定規準*に照らし、観点別の基準*による採点を行う。
- (3) 採点にあたっては、選定対象について、県立図書館3館がそれぞれ採点し、その合計を総合点とする。
- (4) 総合点順の通し番号100番までを選定するとともに、分野別に改めたものを推薦図書選定原案とする。
- (5) 子ども向け選定図書については、特に冊数を定めないが、総合点順及び下記4の(2)により、小・中学校、高校別に改めたものを推薦図書選定原案とする。
- (6) 原案について、選定委員会で審査し、選定する。

*選定の観点→選定のために必要な要素、領域。

*選定規準→選定の観点によって示された要素を、より具体化したもの。

*観点別の基準→選定規準で示された要素を満たしているかの程度を数値で示したもの。

4 原案作成時の選定の観点と選定規準

- (1) 内容については、「100冊」、「子ども」とも次のア～ウのそれぞれを選定の観点とする。
なお、《 》は選定規準を表す。

ア 郷土の特徴を有し、充実した読書体験が得られるものである。

《千葉県の記事が多く、推薦の理由も正当であり、かつ内容に深みがある》

イ 郷土の特徴を有し、多くの県民に興味や関心を持たせるものである。

《千葉県の記事が多く、かつ多くの図書館で所蔵されている》

ウ 作者や作品が千葉県と関わりがあり、郷土の再発見、再認識につながるものである。

《千葉県にゆかりがあり、郷土に誇りや愛着を持つことができる》

- (2) 子ども向け選定図書については、選定の観点と選定基準に加えて、児童生徒に深い感動や豊かな心の育成に資するものであるとともに、将来の目標や生き方を考えさせることができる図書であることに留意し、選定図書（原案）を作成する。

5 選定図書リストの項目について

- (1) 100冊については、「書名」、「著者名」、「出版社」、「出版年」、「内容」*の各項目とし、分野別に「書名」の50音順とする。
- (2) 子ども向け選定図書についても、項目は同様とし、小中学校・高校別に「書名」の50音順とする。

※「内容」→簡単な概要と千葉県との関わりを紹介する。

6 選定委員会の審査の観点

- (1) 県立図書館員が作成した原案が、選定規準に合致している。
- (2) 推薦数の多寡等の理由での選定としていない。
- (3) 原案のまとめ方等に不備がない。
- (4) 本県の読書活動の推進に十分資する選定である。

7 選定結果の公表等について

- (1) 選定委員会で選定された結果については、平成23年度当初に、県立図書館ホームページに掲載する。
- (2) 平成23年度に、推薦図書の募集から選定図書決定までの経緯及び分析結果などを加えた事業報告書を作成し、県内外公共図書館及び関係機関に周知する。
- (3) 平成23年度に、100冊図書を県立図書館3館で巡回展示するとともに、県民に100冊リストの配布などを通し、本県の読書活動の一層の推進につなげる。

県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの１００冊」～Ｑ＆Ａ

Ｑ１ 今回の選定リストは、だれが選定したのですか。

Ａ１ 千葉県図書館協議会委員及び県立図書館長（中央・西部・東部）によって構成された選定委員会が選定しました。

Ｑ２ １，３９０冊から１００冊を選定したということですか。

Ａ２ 書誌事項の確認を行い、同一書籍を統合した結果、７７７冊にまとまりました。従って、この７７７冊から１００冊を選定したことになります。

Ｑ３ 選定の観点や規準はどういうものですか。

Ａ３ 内容について、「１００冊」、「児童生徒向け」とも次のア～ウのそれぞれを選定の観点とするとともに、選定規準についても選定委員会で以下のように決めました。

ア 郷土の特徴を有し、充実した読書体験が得られるものである。

規準：千葉県の記述が多く、推薦の理由も正当であり、かつ内容に深みがある。

イ 郷土の特徴を有し、多くの県民に興味や関心を持たせるものである。

規準：千葉県の記述が多く、かつ多くの図書館で所蔵されている。

ウ 作者や作品が千葉県と関わりがあり、郷土の再発見、再認識につながるものである。

規準：千葉県にゆかりがあり、郷土に誇りや愛着を持つことができる。

また、子ども向け選定図書については、選定の観点と選定基準に加えて、児童生徒に深い感動や豊かな心の育成に資するものであるとともに、将来の目標や生き方を考えさせることができる図書であることに留意し、選定図書を作成しました。

Ｑ４ １００冊と併せて、小中学生及び高校生リストを作成したのはなぜですか。

Ａ４ 読書県「ちば」の推進、子どもの読書の推進には、多くの材料提供が必要なことから、推薦図書の中から子ども向けのリストアップを図り、紹介することとしました。
また、今回の選定が、千葉県に特化した図書をベースとしていることから、子どもたちに郷土を愛する心の醸成や、郷土を再発見、再認識するよい機会となると考え、一般主体の「１００冊」と別途選定リスト作成を行いました。

Ｑ５ １，３９０冊のうち、児童生徒の応募はどの程度ですか。

Ａ５ 年代別内訳から「～１０代」を見ると、約４００名弱程度の応募があったと考えています。

Ｑ６ １００冊リストと子ども向けリストには、重複する図書はあるのですか。

Ａ６ 小中学生向けリストが２２冊、高校生は１７冊重複があります。

Ｑ７ 今回のリストの特徴はなんですか。

Ａ７ 「千葉県らしさ」が顕著な図書を絞り込むということで、複数の観点と規準により、１００冊を選定したことが最大の特徴です。さらにリスト内容紹介については、県立図

書館職員が当該図書に目を通し、責任を持って記載させていただきました。また、子ども向けリストについては、1,390冊の推薦者による推薦理由をそのまま抜粋させていただき、推薦者の生の声を反映する形をとらせていただきました。これは、推薦者の千葉県に対する郷土愛や図書に対する愛着にあふれているものが多いという理由からこのような体裁をとりました。

Q 8 選定された図書の巡回展示を行うとのことですが、そのほか広報等の活動を考えていますか。

A 8 今回、県民の皆様の郷土を愛する心や読書活動の普及につながるよう、県民の方に分かりやすく馴染みやすい形での昨年10月の推薦リストの発表以来、段階を追って発表してまいりました。今回このような形でまとめたことにより、県民の皆様に目に見える形ということで、巡回展示を企画いたしました。さらにリーフレットや報告書などの形をとりつつ、さらに広報啓発活動に努めてまいります。

県民の本棚 ～であい、ふれあい「ちばの100冊」～ 関係リスト

- 県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの100冊」～ 分野別書名リスト
- 県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの100冊」～ 内容紹介リスト
- 県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの本」～
〔小・中学生から読める本〕 リスト
- 県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの本」～
〔高校生向け〕 リスト

県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの100冊」～

分野別書名リスト

ゆかりの物語

	書 名	著者名	出版社	出版年
1	青べか物語	山本 周五郎／著	新潮社	1987
2	アメンボ号の冒険	椎名 誠／著	講談社	1999
3	原子炉の蟹	長井 彬／著	講談社	1981
4	海を感じる時	中沢 けい／[著]	講談社	1980
5	さざなみ情話	乙川 優三郎／著	朝日新聞社	2006
6	十返舎一九の房総道中記	十返舎 一九／[著] 鶴岡 節雄／校注	千秋社	1984
7	少年少女古典文学館 22 里 見八犬伝	栗本 薫／著	講談社	1993
8	少年八犬伝 上・下（地平線ブ ックス）	小野 裕康／著 多田 ヒロシ ／絵	理論社	1988
9	新編日本古典文学全集 26 更級日記	[菅原孝標女／著] 犬養 廉／ 校注・訳	小学館	1994
10	智恵子抄	高村 光太郎／著	新潮社	2003
11	千葉の童話	日本児童文学者協会『県別ふ るさと童話館』編集委員会／ 編集	リブリオ出版	1997
12	天国までの百マイル	浅田 次郎／著	朝日新聞社	1998
13	南総里見八犬伝 1～12	曲亭 馬琴／[作] 浜田 啓 介／校訂	新潮社	2003 -2004
14	野菊の墓	伊藤 左千夫／著	新潮社	1968
15	ペロ出しチョンマ	斎藤 隆介／作 滝平 二郎 ／絵	理論社	2000
16	魔の海に炎たつ	岡崎 ひでたか／作	くもん出版	2004
17	麦熟るる日に	中野 孝次／著	河出書房新社	1979

文学案内

	書 名	著者名	出版社	出版年
1	かくれみの街道をゆく 正岡子 規の房総旅行	関 宏夫／著	崙書房出版	2002
2	鑑賞 房総の古典文学	江口 孝夫／著	崙書房	1985
3	島崎藤村 房州・『巡礼』	千葉 宣朗／著	千秋社	1980
4	書でめぐる房総文学の旅	幕田 魁心／書	木耳社	2010

5	漱石の夏やすみ	高島 俊男／著	筑摩書房	2007
6	ふさの国 文学めぐり 再改訂版	千葉県高等学校教育研究会 国語部会／編	富士出版印刷	2010
7	房総を描いた作家たち	中谷 順子／著	暁印書館	1998

ドキュメンタリー

	書 名	著者名	出版社	出版年
1	朝の読書が奇跡を生んだ 毎朝10分、本を読んだ女子高生たち	船橋学園読書教育研究会／ 編著	高文研	1993
2	あの夏、西の風が吹いた 銚子西高野球部の青春物語	小林 信也／著	ベースボール・マガジン社	2008
3	命をつなげ！ドクターヘリ 日本医科大学千葉北総病院より	岩貞 るみこ／作	講談社	2008
4	学校が兵舎になったとき 千葉からみた戦争一九三一～四五	千葉県歴史教育者協議会／ 編集	青木書店	2004
5	千葉今昔物語 新房総歳事記	海老名 雄二／著 平野 元 三郎／著	千秋社	1974
6	ちび象ランディと星になった少年	坂本 小百合／著	文春ネスコ	2004
7	朝鮮の千葉村物語 房総から渡った明治の漁民たち	石垣 幸子／著	崙書房出版	2010
8	東京湾をつないだ男たち 巨大事業を支えた技術者の記録	日経コンストラクション／編	日経BP社	1997
9	「ナリタ」の物語 1978年開港から	大和田 武士／著	崙書房出版	2010
10	「花の谷」の人びと 海辺の町のホスピスのある診療所から	土本 亜理子／著	シービーアール	2004
11	房総白球伝 野球王国ちばの100年	和田 正樹／著	崙書房出版	1992
12	房総美術の往還 近代日本美術の黎明を追って	中地 昭男／著	求竜堂	1991

民話・昔話・伝説

	書 名	著者名	出版社	出版年
1	千葉県の民話 証誠寺のタヌキばやしほか 県別ふるさとの民話21	日本児童文学者協会／編	偕成社	1980
2	千葉県ふるさとのむかし話	荒川 法勝／著	暁印書館	1995

3	千葉県妖怪奇異史談 写真で綴る文化シリーズ 千葉県3	荒川 法勝／編	暁印書館	1997
4	千葉の伝説	千葉県文学教育の会／編	日本標準	1981
5	手児奈伝説 万葉に歌われた真間の娘子	千野原 靖方／著	崙書房	1977
6	謎のなんじゃもんじゃ 千葉の民話	岡崎 証男／著	げんごろう	1996
7	房総の伝承奇談	杉谷 徳蔵／著	暁印書館	1997
8	房総の秘められた話、奇々怪々な話	大衆文学研究会千葉支部／編著	崙書房	1983
9	読みがたり千葉のむかし話	「千葉のむかし話」編集委員会／編	日本標準	2005

ひと

	書 名	著者名	出版社	出版年
1	石川倉次物語 日本点字の創始者	永嶋 まつ子／著	永嶋まつ子	2009
2	埋火 謙映院幾千子と堀田正睦	秋本 喜久子／著	新人物往来社	2007
3	上総下総千葉一族	丸井 敬司／著	新人物往来社	2000
4	佐倉惣五郎	児玉 幸多／著	吉川弘文館	1985
5	千葉県を築いた人びと	千葉県教育研究会社会科教育部会／編	旺文社	1985
6	千葉県歴史の人物	荒川 法勝／編	暁印書館	1988
7	千葉常胤	福田 豊彦／著	吉川弘文館	1987
8	千葉の先人たち	千葉県教育研究会社会科教育部会／編著	光文書院	1981
9	天と地を測った男 伊能忠敬	岡崎 ひでたか／作	くもん出版	2003
10	ドン・ロドリゴの日本見聞録 スペイン人の見た400年前の日本の姿	ドン・ロドリゴ／[著]	たにぐち書店	2009
11	波の伊八 北斎に影響を与えた房州の彫工	七海 敦子／著	千葉日報社出版局	2004
12	房総ふる里発見伝 千葉を彩る107人	読売新聞社千葉支局／編著	崙書房出版	1999
13	四千万歩の男 1～5	井上 ひさし／著	講談社	1992 -1993

自然

	書 名	著者名	出版社	出版年
1	生きている印旛沼 民俗と自然	白鳥 孝治／著	崙書房出版	2006
2	大山千枚田百選	水田 稔／写真	人類文化社	2002
3	消えた砂浜 九十九里浜五十年の変遷	小関 与四郎／撮影	日経BP企画	2005
4	子どもとふれあう千葉しぜんたん さくガイド	松戸市理科同好会ネイチャーグループ／著	丸善メイツ	1998
5	たんぽのおぼけタニシ	大木 淳一／しゃしんとぶん	そうえん社	2009
6	ちば淹めぐり	う沢 喜久雄／著	崙書房出版	2009
7	千葉の自然をたずねて		築地書館	1992
8	千葉県山 改訂版	中西 俊明／著	山と溪谷社	2010
9	千葉花の名所12ヵ月 花39種・名所134ヵ所		山と溪谷社	2003.3
10	利根川物語	高橋 裕／著	筑摩書房	1983
11	房総半島の地学散歩ー海から山へ 第1巻 第2巻	宮内崇裕,[千葉大学大学院]理学研究科地球科学コース／編	千葉日報社	2008 -2009
12	幻のカエル がけに卵をうむタゴガエル	大木 淳一／写真 文	新日本出版社	2006

くらし

	書 名	著者名	出版社	出版年
1	海女たちの四季 房総海女の自叙伝	田仲 のよ／著	新宿書房	2001
2	江戸東京を支えた舟運の路 内川廻しの記憶を探る	難波 匡甫／著	法政大学出版局	2010
3	がんばれ！ 銚子電鉄 ローカル鉄道とまちづくり	向後 功作／著	日経BP社	2008
4	鯨のタレ 伝統食文化と房総の漁師たち	山口 栄彦／著	多摩川新聞社	1999
5	小湊鉄道の今昔 レールは人生を乗せて	遠山 あき／著	崙書房出版	2004
6	旬・菜・記 千葉はうまい	高山 修一／著	崙書房出版	2009
7	千葉県下の各高等学校校歌集 補訂版	奥村 正子／編集 田村 洋子／編集	奥村正子	2000
8	千葉の建築探訪	中村 哲夫／著	崙書房出版	2004
9	ちばの鉄道一世紀	白土 貞夫／著	崙書房出版	1996

10	手仕事の匠たち 千葉職人紀行	清野 文男／写真・文	崙書房出版	1991
11	東京湾漁師町 江戸前の食を求めて	西潟 正人／著	生活情報センター	2006
12	日本の食生活全集 12 聞き書 千葉の食事	「日本の食生活全集 千葉」編集委員会／編集	農山漁村文化協会	1989
13	火の見櫓の上の海 東京から房総へ	川本 三郎／著	NTT出版	1995
14	太巻き祭りずし新作フルレシピ集 楽しいきれいおいしい	龍崎 英子／著	東京書店	2005
15	房総のうた	朝日新聞千葉支局／著	未来社	1983
16	房総のふるさと言葉	安藤 操／編	国書刊行会	2005
17	房総の祭り	中嶋 清一／著	うらべ書房	1988
18	房総の民家歳時記 なつかしい昔の暮らし	道塚 元嘉／著	崙書房出版	1996

歴史

	書 名	著者名	出版社	出版年
1	図説千葉県の歴史	三浦 茂一／責任編集	河出書房新社	1989
2	図説房総の城郭	千葉城郭研究会／編	国書刊行会	2002
3	千葉県の戦争遺跡をあるく 戦跡ガイド&マップ	千葉県歴史教育者協議会／編	国書刊行会	2004
4	千葉県の百年	三浦 茂一／[ほか]著	山川出版社	1990
5	千葉県の不思議事典	森田 保／編	新人物往来社	1992
6	千葉県の民衆の歴史50話	千葉県歴史教育者協議会／編	桐書房	1992
7	千葉県の歴史	石井 進／編 宇野 俊一／編	山川出版社	2000
8	千葉県の歴史一〇〇話	川名 登／編著	国書刊行会	2006
9	千葉県博覧図 目でみる千葉県の明治時代 上・中・下	国書刊行会／編	国書刊行会	1986
10	千葉の道千年物語 房総の歴史街道を旅する	山本 光正／監修	千葉日報社	2002
11	千葉歴史探訪ウォーキング 県内各地で気軽に楽しめるルートガイド	歴史街道歩きの会／著	メイツ出版	2010
12	房総＜千葉＞学検定学習帳	ふるさと文化研究会／編	国書刊行会	2008

県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの100冊」～

ゆかりの物語

『青べか物語』 山本周五郎 著 1987

山本周五郎の代表作の一つで、舞台になっている漁村の浦粕とは今の浦安です。今では東京ディズニーリゾートで賑わっていますが、今でも昔からの漁村の名残を感じることのできる場所です。べか舟はなくなってしまいましたが、海辺の人々の暮らしや人間性が描かれ、どこか懐かしい作品です。

『アメンボ号の冒険』 椎名誠 著 講談社 1999

千葉に住んでいた作者の、少年時代の冒険物語です。筏を作って川下りをしたり、埋立地でこっそりキャンプをしたり、子どもなら誰でもわくわくするような冒険の話は、子どもだけでなく、子ども時代を懐かしく思う大人にもお勧めです。

『原子炉の蟹』 長井彬 著 講談社 1981

第27回（昭和56年）江戸川乱歩賞を受賞したミステリー小説です。九十九里浜にある原子力発電所で起きた密室殺人を、新聞記者が解き明かしていくという設定です。記者が勤務している千葉市と原子力発電所がある東総地域が舞台の中心です。特に、千葉駅周辺は、百貨店、喫茶店、居酒屋、千葉城などが随所に出てきます。丁寧な取材のもと、原子力発電所の建設にまつわる疑惑をテーマにした作品です。

『海を感じる時』 中沢けい 著 講談社 1980

父を早くに亡くした高校生の恵美子は、母との二人暮らし。「女らしさ」に反発を感じ自立を目指しながらも、同じ部活で知り合った上級生に尽くしたいと思っている自分の矛盾に気づきます。また、母と娘の関係も互いに愛情を持ちながら、すれ違っていきます。館山の町と海を舞台に懸命に生きる少女を、18歳の著者が描いた青春小説です。

『さざなみ情話』 乙川優三郎 著 朝日新聞社 2006

高瀬舟の船頭の修次と、松戸の飯盛宿のちせの恋物語。江戸時代の下層階級の過酷な労働状況だけではなく、当時の水運の繁栄の様子など、興味深く読める作品です。

『十返舎一九の房総道中記』 十返舎一九 著 鶴岡節雄 校注

千秋社 1984 （新版絵草紙シリーズ）

江戸時代の十返舎一九の絵草紙（青本）が底本であり、丁寧な校注が付けられ、現代人にも読みやすい内容となっています。一九が江戸小網町の行徳河岸から行徳船で行徳に渡り、内房を館山へとたどり、さらに茂原、市原を経て、千葉から船で江戸へ帰り着くまでの房総半周の道中記です。土地土地の名所、名物などゆかりを眺めるだけでも楽しめる旅行紀です。

『少年少女古典文学館 22 里見八犬伝』 栗本薫 著 講談社 1993

南房総を舞台に八犬士が戦う「南総里見八犬伝」を子どもでも読めるように書かれています。テレビで放送された八犬伝を見て興味を持った人にもお勧めです。

**『少年八犬伝 上・下』 小野裕康 著 多田ヒロシ 絵
理論社 1988 (地平線ボックス)**

千葉県生まれの作者が南総里見八犬伝を基にした作品です。現代に蘇る八つの玉と八犬士の戦いがリズム感のある文章で描かれています。中学生に特にお勧めです。

**『新編日本古典文学全集 26 更級日記』 菅原孝標女 著 犬養廉 校注・訳
小学館 1994**

平安の時代、菅原孝標一家が任地上総（現在の市原市）から京都へ帰る時に始まる娘の日記です。文学少女だった彼女の日記には源氏物語や、古今和歌集など当時人気を博した文学への憧れが随所にみられ、道中いかに景色を楽しみつつ京へ上ったことかと思ひ巡らすことができます。康平元年（1058）10月の夫の野辺送りで終わっています。

『智恵子抄』 改版 高村光太郎 著 新潮社 2003

光太郎の妻智恵子は、精神を病み治らぬまま亡くなってしまいます。智恵子への光太郎の愛が溢れる美しい作品です。九十九里で静養した期間も長く、詩集とともに「九十九里浜の初夏」が納められています。真亀海岸に「千鳥と遊ぶ智恵子」の碑がありますが、海岸の千鳥が今でも智恵子を呼んでいるようです。

**『千葉の童話』 日本児童文学者協会『県別ふるさと童話館』編集委員会 編集
リブリオ出版 1997 (愛蔵版県別ふるさと童話館)**

千葉県を舞台にした創作童話や少年少女詩を集めた童話集です。

『天国までの百マイル』 浅田次郎 著 朝日新聞社 1998

バブルの崩壊とともに会社が倒産、妻子とも別れた男は、養育費に追われ自分の生活が成り立たないまできてしまいます。そのような時、心臓病を患っていた母の病状が進み、最後の望みは神の手によるバイパス手術だけでした。奇跡を信じて千葉県の海に面したサン・マルコ病院を目指します。家族のあり方、人との深い結びつきに感動を呼ぶ物語です。

**『南総里見八犬伝 全12巻』 曲亭馬琴 作 浜田啓介 校訂
新潮社 2003-2004 (新潮日本古典集成)**

曲亭馬琴が約200年前の江戸時代後期に書いた千葉県を舞台とした作品であり、八つの玉が結びつけた八犬士が活躍する長編小説です。八犬伝は、古今を通じて多くの人を魅了してきた作品です。

『野菊の墓』 伊藤左千夫 著 新潮社 1968

作者の伊藤左千夫は、千葉県山武郡の農家で生まれた明治後期の歌人、小説家です。野菊の咲き乱れる千葉県の田園風景を背景に描かれており、その素朴な風景がお互いに想い合う2人を取りまき、余計に悲しい出来事を引き立てています。千葉県を舞台にくりひろげられたとても切ない純愛、この感動を多くの人に読んでほしい作品です。

**『ペロ出しチョンマ』 斎藤隆介 作 滝平二郎 絵 理論社
2000 (新・名作の愛蔵版)**

千葉の花和村の「ペロ出しチョンマ」という人形に秘められた悲しい物語です。貧しい農村の窮状を救うために、直訴した父とその家族に起こった悲劇。幼ない兄妹のやりとりが切なく胸を打ちます。「ペロ出しチョンマ」という人形は、義民佐倉宗吾にまつわる創作ですが、民話調の語りと滝平二郎の絵が、当時の人々の切なる思いを今に伝えています。

『魔の海に炎たつ』 岡崎ひでたか 作 小林豊 画 くもん出版 2004

南房総を舞台に、船大工の次男満吉が、船大工になるべく苦しい修行をする児童向け物語です。強い意志のもと最後には夢をかなえることができます。この本を通じて、将来の夢に向かって邁進することの大切さを感じ取れると思います。

『麦熟るる日に』 中野孝次 著 河出書房新社 1979

第7回(1979年)「平林たい子賞」受賞作でもある本書は、市川市生まれの著者の自伝的小説です。大工だった父にあこがれながら、また、職人氣質の父が厚い壁となり進路をはばみます。戦前戦中の市川の町並みが、少年の背景にぴったりと付いています。

文学案内

『かくれみの街道をゆく ―正岡子規の房総旅行―』 関宏夫 著 崙書房出版 2002

明治24年(1891)春、帝大の学生だった正岡子規は、房総を一人で歩いて旅し、「かくれ蓑」「隠蓑日記」「かくれみの句集」という作品を残しています。著者は、子規の歩いた道を「かくれみの街道」と名づけ、子規が旅行中につけた筆記帳や、「隠蓑日記」の日程に従って、その道を歩いてたどり、「写生」に目覚める直前の子規を検証しました。

『鑑賞 房総の古典文学』 江口孝夫 著 崙書房 1985 (ふるさと文庫)

この本では、『万葉集』に登場する「真間の手児奈」や「防人の歌」から、江戸時代、上田秋成『雨月物語』の「浅茅が宿」まで、代表的な日本古典文学の中から房総に関する記述を取り上げています。登場人物の性格に焦点をあてているので、大変興味深い作品です。

『島崎藤村 ―房州・『巡礼』―』 千葉宣朗 著 千秋社 1980

房州と島崎藤村のつながりに光を当てた作品です。著者は、昭和53年(1978)秋から翌年冬にかけて、関係者を尋ねて房州各地を巡り歩き、調査しました。その過程で、著者は、藤村の家で住み込みで働いていた女性が、藤村からもらって所蔵していた「新・巡礼ノート」と出会い、藤村の作品「巡礼」解明に取り組んでいる点が興味深く紹介されています。

『書でめぐる房総文学の旅』 幕田魁心 書 笹生浩樹 写真・文 木耳社 2010

「月の沙漠」や「証城寺の狸囃子」は千葉県で生まれた童謡です。また、房総は、夏目漱石、芥川龍之介、正岡子規ら多くの文人が訪れ、名句を残しました。著者はそれらを書で表現し、紹介しています。房総の「美」を再発見することができます。

『漱石の夏やすみ ―房総紀行『木屑録』―』 高島俊男 著 筑摩書房 2007

夏目漱石は、帝大入学前、予備門の学生だった数え年23歳の夏、房総半島を旅行し、その旅について、漢詩も入れた漢文で『木屑録(ぼくせつろく)』という紀行文を書いています。この作品は、同級生、正岡子規が『七草集』を作って仲間に見せていたのを見て、ライバル意識を燃やした漱石が子規に見せるために作ったものです。

『ふさの国文学めぐり』 再改訂版 千葉県高等学校教育研究会国語部会 編 富士出版印刷 2010

昭和42年(1967)発行の『房総の文学めぐり』の再改訂版です。千葉県出身や房総を訪れて作品を残した文学者の足跡を千葉県高等学校教育研究会国語部会のメンバーが自ら訪ね歩き、調査、執筆したものです。再改訂版の発行に際し、新メンバーが再び現地に赴き、最新の情報を収集しました。幅広い読者層向けに書かれています。

『房総を描いた作家たち』 中谷順子 著 暁印書館 1998

千葉日報に、平成3年（1991）から「房総の作家」として連載されているものです。平成23年（2011）現在、第4巻（2008年刊）まで出版されています。房総の作家とは、千葉県に生まれ育った作家という意味ではなく、千葉県を小説・随筆などに描いた作家です。その作品の千葉に関する部分をピックアップして追っています。

ドキュメンタリー

『朝の読書が奇跡を生んだ ―毎朝10分、本を読んだ女子高生たち―』

船橋学園読書教育研究会 編著 高文研 1993

「朝の読書」は、現在、全国の学校で広く行われています。その実践に初めて取り組んだのが、この本で紹介されている船橋市の船橋学園女子高校（現、東葉高等学校）で、昭和63年（1988）のことでした。平成5年（1993）に出版されると大変反響を呼びました。続編（1996）、『「朝の読書」が学校を変える』（2001）も出版されています。

『あの夏、西の風が吹いた ―銚子西高野球部の青春物語―』 小林信也 著

ベースボール・マガジン社 2008

市立銚子西高等学校は、平成20年（2008）3月、市立銚子高等学校と統合され、30年余の歴史に幕を下ろしました。同校には、開校翌年に創部され、石拾いをしてグラウンドを整備することから始め、5年目の夏、ついに甲子園出場を果たした野球部がありました。野球にかけた球児たちの青春と卒業後の人生を追ったノンフィクションです。

『命をつなげ！ドクターヘリ ―日本医科大学千葉北総病院より―』 岩貞るみこ 作 講談社

2008 （講談社青い鳥文庫）

千葉県では、平成13年（2001）10月から日本医科大学千葉北総病院を基地病院としてドクターヘリ事業が開始されました。同病院におけるドクターヘリを使った最先端の救急医療の様子を、新米医師の目を通して描いた児童向けノンフィクションです。救命救急に携わる人々の熱い思いと、ドクターヘリの意義がよく理解できます。

『学校が兵舎になったとき ―千葉からみた戦争一九三一～四五―』 新装版

千葉県歴史教育者協議会 編集 青木書店 2004

平成15年（1995）は、「戦後50年」と呼ばれる年でした。県内各地では、ニイタカヤマノボレを発信した船橋の無線塔、風船爆弾製造のための学徒動員、それぞれの地域に残る戦争の具体的史実の調査・研究が進められました。本書では、それらを一つの記録にまとめることで、「千葉」という地域から戦争の全体像に迫ろうと試みました。

『千葉今昔物語 ―新房総歳事記―』 海老名雄二 著 平野元三郎 著

千秋社 1974

昭和46年（1971）にNHK千葉FMで放送された「房総今昔」をもとに、千葉県各地に古くから伝わる行事や事件、人物など郷土の話題が、1月から12月まで歳時記の形でまとめられています。

『ちび象ランディと星になった少年』 坂本小百合 著 文春ネスコ 2004

主人公は、ゾウが好きで、ゾウの行く末を思い、日本初のゾウ使いとなった少年です。しかし、彼は早逝してしまいます。少年の母であり、市原ぞうの国を設立した筆者が亡き息子とゾウたちについての

軌跡を振り返る物語です。

『朝鮮の千葉村物語 ー房総から渡った明治の漁民たちー』 石垣幸子 著

崙書房出版 2010 (ふるさと文庫)

著者は、流山市立博物館友の会で活動、研究誌『東葛流山研究』に多くのエッセイ、論文を発表しています。日露戦争の最中に、不漁に喘いでいた房総から漁民が移住し、朝鮮に千葉村が形成されました。活気のある村でしたが、鈴木松五郎監督が殺害されてからは衰退の一途をたどりました。その千葉村の真相解明に挑んだ作品です。

『東京湾をつないだ男たち ー巨大事業を支えた技術者の記録ー』

日経コンストラクション 編 日経BP社 1997

事業着手から10年、調査開始から数えると30年の歳月を費やし、平成13年(1997)12月、東京湾アクアラインがついに完成しました。水漏れのないトンネルを築くため、湧水という危機と困難に直面しながらも、その都度、決断を下してプロジェクトを完成に導いた技術者たちの仕事を紹介したドキュメントです。

『「ナリタ」の物語 ー1978年開港からー』 大和田武士 著 鹿野幹男 著

崙書房出版 2010

成田開港30周年にあたる平成20年(2008)、朝日新聞千葉版では、「国か反対派かにこだわらない」「無名の人に光を当てる」という基本方針の下、60人を超える関係者に改めて取材し、成田闘争の歴史をひもとく「30年の物語」という連載を行いました。この本は、その中で、特に反響の大きかった記事をもとに加筆したものです。

『「花の谷」の人びと ー海辺の町のホスピスのある診療所からー』 土本亜理子 著

シービーアール 2004

「花の谷」とは、南房総は千倉町にある花の谷クリニックのことです。そこは、終末期医療の「海辺のホスピタル」として知られています。ここを死に場所と選んだ患者や家族、やりがいのある職場として移り住んだスタッフの声などを集めました。誰もが避けることのできない死を意識した時、命を預かる医療系を目指す若者にも、読んでほしい一冊です。

『房総白球伝 ー野球王国ちばの100年ー』 和田正樹 著 崙書房出版 1992

平成3年(1991)は、千葉県で野球が取り入れられてから100年目にあたり、読売新聞千葉版では、「房総白球伝」の連載が企画されました。佐倉出身の長島茂雄や、甲子園の常連校となり、全国制覇も成し遂げた銚子商や習志野にまつわるものなど、興味深い50のエピソードを発掘し、100年間に振り返っています。

『房総美術の往還 ー近代日本美術の黎明を追ってー』 中地昭男 著

求竜堂 1991

著者は、千葉県で教員を経て、県立美術館に勤務しました。著者の永年にわたる房総美術研究を集大成したものが本書です。著者は、房総は、炎えるような男性的な一面と、疲れた心を癒す女性的な優しさを併せ持っていて、房総にかかわった作家も作品も、この風土性に大きく影響を受けて生まれていると言います。

民話・昔話・伝説

『千葉県の民話 一証誠寺のタヌキばやしほか一』 日本児童文学者協会 編
偕成社 1980 (県別ふるさとの民話)

「ツバキの海」(とおいとおいむかしの話)、「びんぼう神」(ほのぼのと心あたたまる話)、「太政さまの杉の皮」(すこしむかしの話)など、伝説、むかし話、現代民話あわせて33話を収録しています。巻末に各話についての解説があります。小学校高学年から読めます。

『千葉県ふるさとのむかし話』 荒川法勝 著 暁印書館 1995

「真間の手児奈のはなし」、「羽衣の松」など、千葉県各地に伝わるむかし話を39話収録しています。小学校中学年から読めます。

『千葉県妖怪奇異史談』 荒川法勝 編 暁印書館 1997
(写真で綴る文化シリーズ)

怨霊・鬼神を始め、県内各地の異相伝説、秘史、魔界の眷属たちの不思議な話など63の伝承を集めています。それぞれの伝承の舞台となった土地に残る遺跡の写真も、豊富に掲載されています。

『千葉の伝説』 千葉県文学教育の会 編 日本標準 1981

千葉で語り伝えられてきた伝説を36話収録。お話のほかコラム(「清澄山のとんぐ」ほか)や巻末の「ひとくち伝説」でも71の伝説が紹介されています。小学校高学年から読めます。

『手児奈伝説 一万葉に歌われた真間の娘子一』 千野原靖方 著 崋書房 1977

市川市に伝わる手児奈の伝説を、万葉集に収められた歌、伝説成立の事情と時代背景、手児奈霊堂建立の経緯、伝説にまつわるいわれなどの観点から考察しています。

『謎のなんじゃもんじゃ 一千葉の民話一』 岡崎柁男 著 げんごろう 1996

「火車猫おトラ」、「トゲ抜き地蔵」、「カップ池の主」など下総地方に伝わる34話を収録しています。それぞれに「話の背景」の解説があり、上総、安房地方に関連する話についても触れられています。

『房総の伝承奇談』 杉谷徳蔵 著 暁印書館 1997

千葉に伝わる民話や伝説などから「龍」、「天狗」、「椀貸伝説」といった架空の動物や民俗学的伝説の話題30を選んで、それらにまつわる不思議な話、奇談を紹介しています。

『房総の秘められた話、奇々怪々な話』 大衆文学研究会千葉支部 編著 崋書房 1983

史実、伝説、民話、物語などのなかから、墓・塚・祠の話、動物や植物の話、義民の話、埋蔵黄金・財宝の話など不思議な話、奇怪な話60編を収録しています。

『読みがたり千葉のむかし話』 「千葉のむかし話」編集委員会 編 日本標準 2005

「さるかに」(ゆかいな動物ばなし)、「片齒の梅」(ふしぎな話)など47話が千葉の方言を使った語り口で書かれています。続編(「千葉のむかし話 続」1980年刊)も出版されている「千葉のむかし話」(1973年刊)の改訂版です。小学校中学年から読めます。

ひと

『石川倉次物語 ー日本点字の創始者ー』 永嶋まつ子 著 永嶋まつ子 2009

フランスのルイ・ブライユの点字をもとにして日本点字を発案した石川倉次は、長南町で育ち、千葉県で教壇に立った後、生涯、視聴覚障害児教育に携わった人物です。彼の生涯とその功績を、ふりがな付きで、小学生から読むことができるように書かれています。

『埋火 ー謙映院幾千子と堀田正睦ー』 秋本喜久子 著 新人物往来社 2007

幕末の佐倉藩主・堀田正睦とその義母である幾久子を描いた時代小説です。貧窮する佐倉藩の財政を立て直し、幕府の要となり開国に携わっていく過程が描かれています。

『上総下総千葉一族』 丸井敬司 著 新人物往来社 2000

平安時代末期から戦国時代まで、下総国や上総国の一部を支配した千葉氏について、一族や家臣団の歴史、千葉県外の千葉氏一族、千葉氏が信仰した妙見信仰などについて書かれています。巻末には系図が掲載されています。

『佐倉惣五郎』新装版 児玉幸多 著 吉川弘文館 1985 (人物叢書)

小説や戯曲などで有名な義民・佐倉惣五郎。架空の伝説が多い中、人物や事件の背景について、できるだけ史実に基づいて明らかにした伝記です。

『千葉県を築いた人びと』 千葉県教育研究会社会科教育部会 編

旺文社 1985 (郷土を築いた人びとシリーズ)

千葉県に生まれ育った人や生涯を千葉で送った人など、千葉県の発展につくした人物50人について、人物の年表や豊富な図、写真とともに、小・中学生向けにわかりやすく紹介しています。

『千葉県歴史の人物』 荒川法勝 編 暁印書館 1988 (写真で綴る文化シリーズ)

太古から終戦時までの千葉県の歴史上に輝く代表的な人物について、肖像やゆかりの地の写真を多く掲載しながら紹介した人物集です。

『千葉常胤』 福田豊彦 著 吉川弘文館 1987 (人物叢書)

千葉常胤は、頼朝に従って鎌倉幕府を作りあげた御家人の一人で、現在の千葉市立郷土館のあたりが居住跡だと言われています。残された数少ない資料をもとに彼の一生が描かれていて、常胤の人物像がよくわかります。

『千葉の先人たち』 千葉県教育研究会社会科教育部会 編著 光文書院 1981

小・中学生向けに新井白石、堀田正睦など、千葉県出身の人物や千葉県を活躍の舞台とした人物19人を中心にとりあげ紹介した伝記集です。

『天と地を測った男 ー伊能忠敬ー』 岡崎ひでたか 作 くもん出版 2003

江戸時代に、初めて実測による正確な日本地図を作製するという大事業を達成した伊能忠敬。九十九里に生まれ、佐原の豪商として辣腕を振るい、50代で地図作りを始めたその生涯を描く、児童読み物です。

『ドン・ロドリゴの日本見聞録 ―スペイン人の見た400年前の日本の姿―』

ドン・ロドリゴ 著 安藤操 意訳・解説 たにぐち書店 2009

約400年前、スペイン船が遭難し、乗員が御宿に漂着しました。その時の様子を記した、スペイン人ドン・ロドリゴによる「見聞録」を読みやすく編集した本です。大多喜城、江戸や京都を訪れた時の様子や、徳川家康とのやりとりなどが書かれています。

『波の伊八 ―北斎に影響を与えた房州の彫工―』 七海敦子 著 千葉日報社出版局 2004

謎多き江戸時代の彫刻家「波の伊八」。さまざまな調査を重ねた著者が波の伊八の一生を題材に書き上げた歴史小説です。

『房総ふる里発見伝 ―千葉を彩る107人―』 読売新聞社千葉支局 編著 崙書房出版 1999

「地元で活躍する人々を紹介し、町を見直そう」というコンセプトの元に取り材した、読売新聞の連載記事をまとめた本です。単に人名録ではなく、読み物として楽しめるよう編集されています。

『四千万歩の男 全5巻』 井上ひさし 著 講談社 1992―1993

日本全土を歩き回り、実測による日本地図を完成させた伊能忠敬。二間で一步だったとすると、彼の歩いた距離は約四千万歩。地図の好きな著者が伊能忠敬の一生を描く長編歴史小説です。

自然

『生きている印旛沼 ―民俗と自然―』 白鳥孝治 著 崙書房出版 2006

印旛沼およびその流域の概要、過去の人々の生き方、自然的特徴、現在の状況などを、千葉県の水質研究所長、公害研究所長を歴任した著者が詳述しています。その自然的特性や、地域の歴史・民俗と自然の生態系などを複眼的に捉え、環境保全の視点から今後の印旛沼の環境についても言及しています。

『大山千枚田百選』 水田稔 写真 人類文化社 2002

「日本の棚田百選」にも選ばれた鴨川市の大山千枚田は、東京から最も近い棚田ということもあって、近年注目されています。本書は、鴨川市出身の著者が7年間にわたって棚田の四季や里山の自然を撮りつづけた美しい写真集です。

巻末には「日本の棚田百選」のリストがあります。

『消えた砂浜 ―九十九里浜五十年の変遷―』 小関与四郎 撮影

シップ・アンド・オーシャン財団海洋政策研究所 編 日経BP企画 2005

九十九里浜を出身地とする写真家が、半世紀に渡り追いつけた、九十九里浜の変わりゆく姿と、人々の暮らしを写真に収めた一冊です。過去の実景の光景を懐かしむ写真集であると同時に、日本の沿岸の現在と将来の環境についても考えさせられる資料です。

『子どもとふれあう千葉しぜんたんさくガイド』

松戸市理科同好会ネイチャーグループ 著 丸善メイツ 1998

親子で楽しみながら自然観察ができる、県内の公園、森、川や海などのスポットが紹介されています。現地に出会える生き物や植物について、写真や挿絵で解説されており、スポットへのアクセスに必要なデータや地図についても掲載されています。

『たんぽのおばけタニシ』 大木淳一 しゃしんとぶん そうえん社 2009

(そうえん社写真のえほん)

本書は、九十九里地域での米作りと、それに被害をもたらす外来生物（おばけタニシ：スクミリンゴガイ）の生態や、人との関わりを、読みやすい平易な文章で紹介した科学絵本です。子どもから大人まで全ての世代に、ふるさとの自然の現状とあり方を考えるきっかけを提供してくれます。

『ちば滝めぐり』 う沢喜久雄 著 鶴沢幸子 著 崙書房出版 2009

千葉県にある200を越す滝を、[夷隅ブロック]、[君津ブロック]など6ブロックに分割し、紀行文と写真により、紹介しています。有名な栗又の滝（大多喜町）などのほかの、隠れた滝についても記述があり、また交通の便や地図のデータも掲載されていることから、滝めぐりのガイドとしておすすめします。

『千葉の自然をたずねて』 築地書館 1992 (日曜の地学)

各県の地質、化石、鉱物、生物、地理、歴史、文化財などを、コース別に紹介する「日曜の地学」シリーズの千葉県版で、県内を11のコースに分けて紹介しています。地質学の観点からわかりやすく解説しているので、千葉県の地質や地形と、地球全体の運動や気候変動とに深い関わりがあることが理解できます。

『千葉県の山』 改訂版 中西俊明 著 植草勝久 著 山と溪谷社 2010

(新・分県登山ガイド)

千葉県の代表的な46の登山コースが紹介されています。難易度や歩行時間・歩行距離等が一目でわかるようになっており、またビューポイントや入山口、分岐点などの重要ポイントも写真で紹介されています。市町村役場、交通機関等の問い合わせ先のデータもあり、便利なガイドブックです。

『千葉花の名所12カ月 ー花39種・名所134カ所ー』 山と溪谷社 2000

(ジェイ・ガイド)

千葉にある花の名所を、4月から12か月を順に紹介しています。春の桜に始まり、夏のハスや秋のコスモスそして早春の南房総の花畑までの季節の花々39種が、写真と文章で綴られています。アクセスに必要な交通機関などのデータと地図も掲載されており、千葉の花々の名所を訪れるには便利なガイドです。

『利根川物語』 高橋裕 著 筑摩書房 1983 (ちくま少年図書館)

千葉県と関わりの深い利根川は、古くから「暴れ川」として知られ、その治水は為政者にとって最も重要な課題でした。現在に至るまで様々な改良の試みがなされて来ましたが、本書はこの利根川を上流から下流へと改良の軌跡をたどりながら、読者に川とのつきあい方について考えてみることを勧めています。中学生から読めます。

『房総半島の地学散歩ー海から山へ 第1巻 第2巻』 宮内崇裕 編

理学研究科地球科学コース 編 千葉大学房総研究会 編集 千葉日報社

2008-2009 (千葉学ブックレット)

千葉大学の教授、准教授ら多彩な執筆陣により「千葉を知り、千葉を考える」ことを目的に発刊された「千葉学ブックレット」の一冊です。房総半島の地学的な独自性や面白さを、その生い立ち・現在の状況そして将来などについて最新の話題・資料に基づき、地形・地層・地場などを中心に紹介しています。

『幻のカエル ―がけに卵をうむタゴガエル―』 大木淳一 写真・文

新日本出版社 2006 (ドキュメント地球のなかまたち)

『(声はすれども姿が見えない) 幻のカエル』といわれるタゴガエルは、田んぼで合唱しているカエルたちとは違い、水が湧き出す崖の穴で、姿を見せずに鳴いています。本書は、養老溪谷上流のタゴガエルの暮らしぶりを紹介した、写真絵本です。また巻末には県内のカエルたちについても掲載しています。

くらし

『海女たちの四季 ―房総海女の自叙伝―』 新版 田仲のよ 著 加藤雅毅 編

新宿書房 2001

白間津で生まれ育った筆者が、海女の暮らしや自らの半生を振り返った自叙伝です。

『江戸東京を支えた舟運の路 ―内川廻しの記憶を探る―』 難波匡甫 著

法政大学出版局 2010 (水とくまち>の物語)

川にまつわる歴史、文化、地形の話です。千葉県は隣接都県との境を川がなしており、川との関係がたいへん深い県です。川を中心に都市が造られ、産業が発達し舟運が興りました。写真が豊富でたいへん読みやすい本です。

『がんばれ！銚子電鉄 ―ローカル鉄道とまちづくり―』 向後功作 著

日経BP社 2008

車両の検査費用を捻出できず、財政危機を迎えた銚子電鉄。ホームページに掲載した「ぬれせんべいを買ってください」の一言で、支援の輪が広がっていった当時の状況から、銚子電鉄の歴史、地方鉄道のあり方、まちづくりについてまで語られた、鉄道ファンならずとも興味深い一冊です。

『鯨のタレ ―伝統食文化と房総の漁師たち―』 山口栄彦 著

多摩川新聞社 1999

鯨のタレは江戸時代から捕鯨が行われていた南房総の特産で、鯨の肉をタレに漬け込んで、天日に干して作る伝統食です。地元の漁師や漁業関係者への取材をもとに、この鯨のタレを中心として、房総の捕鯨や漁師の生活についてまとめられた一冊です。

『小湊鉄道の今昔 ―レールは人生を乗せて―』 遠山あき 著 崙書房出版 2004

五井駅から上総中野駅まで、養老川に沿うように房総半島を走る小湊鉄道。その歴史や鉄道を支えた人々、各駅の歴史や周辺地域についてなどを、長年の乗客である著者が愛情を込めて記しています。

『旬・菜・記 ―千葉はうまい―』 高山修一 著 崙書房出版 2009

(ふるさと文庫)

ネギ、落花生、梨、イワシ、タイそしてアワビなど千葉の豊富な食材について紹介しています。千葉のおいしさがたくさんつまった一冊です。

『千葉県下の各高等学校校歌集』 補訂版 奥村正子 編集 田村洋子 編集

奥村正子 2000

平成12年(2000)3月発行、千葉県内の高等学校の校歌集です。歌詞編と楽譜編が一冊にまとめられています。歌詞の作者を見ると千葉県の教育に尽くされた方、有名な詩人、歌人、小説家がほとんどで、作曲も有名な方が多く、改めて各学校の歴史が感じられます。

『千葉の建築探訪』 中村哲夫 著 崙書房出版 2004

江戸末期から明治・大正にかけての房総の文化財というべき、教会、神社仏閣、学校、銀行、灯台、商家、豪農、文豪の生家など古い建築に焦点をあて、歴史と建築の両面から紹介しています。写真とわかりやすい文章でまとめられ、楽しみながら房総の歴史と古建築を知ることができます。

『ちばの鉄道一世紀』 白土貞夫 著 崙書房出版 1996

千葉に初めて鉄道が開通した明治時代の様子や、現在県民が身近に利用している各路線の歴史、消えた鉄道や実現しなかった幻の鉄道など、県内の鉄道事情の百年がわかります。

『手仕事の匠たち ー千葉職人紀行ー』 清野文男 写真・文 崙書房出版 1991

大量生産の時代にも「手づくり」にこだわる職人の世界。その生活や作品について写真と文章で綴った、房総各地の職人たちの記録です。長い年月、磨き抜かれた技と手作りの美しさが伝わる一冊です。

『東京湾漁師町 ー江戸前の食を求めてー』 西潟正人 著 生活情報センター 2006

東京湾内の漁師町が写真や地図入りで丁寧に説明され、歴史的背景なども知ることができます。また、海の幸を味わうことができるお店も紹介されており、目にも舌にもうれしい本です。

『日本の食生活全集 12 ー聞き書 千葉の食事ー』

「日本の食生活全集 千葉」編集委員会 編集 農山漁村文化協会 1989

調査・取材に基づき、千葉県内各地の昭和初期の食生活についてまとめています。レシピだけではなく、食生活に関わる様々な事柄も記されており、当時の暮らしぶりなども知ることができます。

『火の見櫓の上の海 ー東京から房総へー』 川本三郎 著 NTT出版 1995

(気球の本)

房総の海辺の町は、町全体が坂になっていて、坂の上から海をみると、火の見櫓（ひのみやぐら）の上、はるか遠くまで海が見えます。ふらりと房総を旅する著者は、ところどころで途中下車し海を眺めます。利根川へ降りれば、安岡章太郎と風景を共有し、銚子電鉄に乗れば、漫画家上村一夫を隣に感じて座ります。著名人が多く訪れた「近所田舎」房総を満喫できる一冊です。

『太巻き祭りずし新作フルレシピ集 ー楽しいきれいおいしいー』

龍崎英子 著 杉崎幸子 著 東京書店 2005

房総半島一帯を中心に伝えられた伝統料理「太巻き祭りずし」。16作品の作り方を掲載した、祭りずしのレシピ集です。

『房総のうた』 朝日新聞千葉支局 著 未来社 1983

千葉県にゆかりのある民謡や童謡、歌謡曲など様々な歌が、現地の取材を元に紹介されています。

『房総のふるさと言葉』 安藤操 編 国書刊行会 2005

房総の挨拶言葉、好きな房総ことば、漁村言葉など、千葉県の方言を生活者の視点から解説しています。付録CDで実際の会話を聞くこともできます。

『房総の祭り』 中嶋清一 著 うらべ書房 1988

調査見聞に基づき、県内200近い社寺の祭について紹介しています。

『房総の民家歳時記 ーなつかしい昔の暮らしー』 道塚元嘉 著 崙書房出版 1996

23棟の民家を取り上げて、写真と紹介文、詳細な平面図のスケッチで紹介しています。伝統的な房総の家屋、素朴で力強いその姿が伝わってきて、訪れてみたいと感じさせてくれる一冊です。

歴史

『図説千葉県の歴史』 三浦茂一 責任編集 河出書房新社 1989 (図説日本の歴史)

図説日本の歴史シリーズの千葉県版。時代別、テーマ別に変換しやすく編集されており、興味を持った時代、テーマから読みたいものがあるところから読んだり、調べ物をしたりするのに便利です。千葉県の新たな文化創造に向けて、多様な可能性を秘めた千葉県の今後のあり方を考える上からも、ふるさと千葉県を知る一冊です。中学生から読めます。

『図説房総の城郭』 千葉城郭研究会 編 国書刊行会 2002

千葉県内に残る中近世の城郭の中から主要な80余りの城郭を取り上げ、最新の研究成果から図化し、解説しています。県内の城跡の入門書として最適であるとともに、城を実際に訪れ、城郭を見る際の案内書として役に立ちます。

『千葉県の戦争遺跡をあらく 一戦跡ガイド&マップー』 千葉県歴史教育者協議会 編 国書刊行会 2004

千葉県内の近代における戦争に関する遺跡や、遺物が残る18コースを取り上げた戦跡見学のためのガイドブックです。日本の戦後、60余年が経過した現在、本書を手にして戦争遺跡をたどることも大切ではないでしょうか。本書は、写真・遺構図・遺物図などを豊富に掲載し、学校での調べ学習や市民が見学する際の調査研究にも役立つ一冊です。

『千葉県の百年』 三浦茂一 [ほか] 著 山川出版社 1990 (県民100年史)

近代における千葉県を「首都近接性」の構造から始まると位置づけ、房総の明治維新、房総近代の出発、明治社会の形成、産業と文化の動き、大正から昭和へ、揺れ動く地域社会、十五年戦争と県民、敗戦後の千葉県、高度成長、そして今と、時代を追って千葉県の歩みを俯瞰しています。現在発展めざましい千葉県ですが、ふと私たちが郷土を考える時、この近現代の百年の流れを知ることがいかに大切であるかを教えてくれる一冊です。

『千葉県の不思議事典』 森田保 編 新人物往来社 1992

房州小松寺の七不思議とは何か。房総半島の中で、なぜ上総の位置が下方なのか。江戸時代の乳製品「白牛酪」は一体誰が食べていたのか。これらの疑問に千葉県出身、千葉在住の各分野の専門家が答えています。宗教、歴史、人物、地理、考古、民俗、生物、産業と多岐にわたり、楽しく読みながら千葉に関する幅広い知識が得られます。

『千葉県の民衆の歴史50話』 千葉県歴史教育者協議会 編 桐書房 1992

千葉県の歴史をできるだけ身近なものとするために、地域の歴史を民衆の立場から考えようと書かれた本です。実際に見学可能な史跡・博物館なども取り上げられています。テーマは原始時代から、東京ディズニーランド、三番瀬と幅広く、それぞれの項目に参考文献があります。

『千葉県の歴史』 石井進 編 宇野俊一 編 山川出版社 2000 (県史)

旧版の「千葉県の歴史」(小笠原長和、川村優／著)の30年後の出版物であり、旧版以後の新しい史実や知見を加えた読みやすい通史となっています。また、「千葉県の百年」(三浦茂一他／著)との併読を前提としており、付録に索引、年表、沿革表、祭礼・行事、参考文献が付けられています。

『千葉県の歴史—〇〇話』 川名登 編著 国書刊行会 2006

下総・上総・安房国であった千葉県に生活してきた人々の歴史を振り返り、100の話にまとめた郷土入門書です。四方を海と川で囲まれた温暖な気候にはぐくまれてきた千葉県の歴史を振り返った時、読者に多くの示唆を与えてくれる一冊です。

**『千葉県博覧図 一目でみる千葉県の明治時代— 上・中・下』 国書刊行会 編
国書刊行会 1986**

明治時代に発行された『日本博覧図』の中から千葉県編を復刻再編集したものです。各地の名所旧跡、役所、学校、名家の邸宅といった様々な建物の銅版画集で、非常に緻密に描かれており当時の風俗や産業の様子がよくわかる資料となっています。

**『千葉の道千年物語 —房総の歴史街道を旅する—』 山本光正 監修
千葉日報社 2002**

房総の歴史街道や道路にまつわる物語を集大成したものです。「ヤマトタケル伝説」から房総の古街道、琥珀ロード、一般国道の事業推移、東京湾アクアライン開通など、時空を超えた千葉の千年道を旅しています。まだまだ多様な発展を遂げる可能性を秘めた千葉県の「道」を考える案内役となる一冊です。

**『千葉歴史探訪ウォーキング —県内各地で気軽に楽しめるルートガイド—』
歴史街道歩きの会 著 メイツ出版 2010**

歌舞伎の市川團十郎を支えた成田山、紀州人がもたらした醤油のまち・銚子、万葉のロマン・市川…。千葉県の歴史ロマンあふれる25のウォーキングコースを紹介しています。各地の歴史、見所、魅力、ウォーキング時間や距離など細かく案内されているので わかりやすく、実際のウォーキングにも活躍します。ここに紹介されたポイントを、順を追って歩くと、千葉の歴史が見えてきます。

『房総く千葉>学検定学習帳』 ふるさと文化研究会 編 国書刊行会 2008

平成18年(2006)から始まった「房総(千葉)学検定」の公式テキストの第2集です。検定3年目にあたる2008年から1級検定が行われるのに合わせて、第1集(2006年出版)より掘り下げた内容になっています。房総(千葉)略年表、房総(千葉)学検定例題集(2級・3級)も収載しています。

県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの本」～(小・中学生から読める本)

保護者・先生方の参考となるよう、「県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』～」で推薦された本の中から、小学生や中学生から読める本の一部を紹介します。

「県民の本棚」の詳細は千葉県立図書館ホームページをご覧ください。

読者対象は目安です（それぞれ略称で表記してあります。対象：小低～（小学校低学年から）、小中～（小学校中学年から）、小高～（小学校高学年から）、中学～（中学生から）読めます）。

内容紹介は、「県民の本棚」に寄せられた「推薦の理由」から抜粋しました。「＊」は図書館で加えました。

ものがたり

『魔の海に炎たつ』 岡崎ひでたか 作 小林豊 画 くもん出版 2004（くもんの児童文学）

対象：中学～

南房総を舞台にした漁師の物語。自然を相手に生活する人たちの暮らしをとおして、わたしたちの心に訴える。同じ千葉県民としてこのように暮らす人たちがいる、という認識を改めて知ることにもなった。今の生活、特に千葉県は海のもの、山のもの、豊富な自然にめぐまれているが私たちの口に入るまでにはたくさんの人の手を経ている。あたりまえではない事を痛感した一冊。

（女性 50代 木更津市）

南総里見八犬伝

『Junior 里見八犬伝 全10巻』 滝沢馬琴 原作 生越嘉治 文 あすなろ書房

1994－1995

対象：小中～

千葉県を舞台にした日本の古典文学である。時は鎌倉時代、「仁」「義」「礼」「智」「忠」「信」「孝」「悌」とふしぎな玉をもつ八人の犬士達が愛と正義の為に悪と戦う冒険ファンタジー。1～10巻までと、ちょっと大変だけど、とても読みやすく書いてありますので、大人になるまでに一度読んでみて。活字が大きいので、年配の方にもお薦めです。（女性 50代 銚子市）

『南総里見八犬伝 一八人の勇士とふしぎな玉一』 新装改訂版 長崎源之助 編 小峰書店 1998

（はじめてであう日本の古典）

対象：小高～

「南総里見八犬伝」は、滝沢馬琴という人が書いたもので、里見家につかえた8人の勇士が大活躍する話です。波乱万丈のストーリーや、八勇士の強さと正義感や、奇抜な趣向の連続や、正しい者が必ず勝つ痛快さ等が、読む人の共感をよびます。この物語は作者の滝沢馬琴が、28年間にわたって書いたもので、規模のすばらしい、雄大な大長編です。小学生にも楽しく読めるので、古典入門へのきっかけになる一冊です。（女性 50代 銚子市）

『少年少女古典文学館 22 里見八犬伝』 栗本薫 著 講談社 1993

対象：中学～

以前テレビドラマで八犬伝を放送したので興味を持ち、本を読みました。私たちが住んでいる千葉県を舞台にしている、読みやすく挿絵もあるので、楽しく読ませていただきました。それぞれ名字に「犬」の字を持つ8人が集まっていく過程を読み進めていくのは、非常に読みごたえがありました。千葉県に住んでいる方には是非読んでもらいたいです。(女性 10代 香取市)

『南総里見八犬伝 全4巻』 滝沢馬琴 原作 浜たかや 編著 偕成社 2002

対象：中学～

丁寧に振られたルビと、レトロ調のイラストで、八犬伝に興味は有るけど…という人に特にお勧め。
(女性 40代 白井市)

医療

『命をつなげ！ドクターヘリ ―日本医科大学千葉北総病院より―』 岩貞るみこ 作

講談社 2008 (講談社青い鳥文庫)

対象：小高～

命を救うためなら 0.000000001 パーセントのわずかな確率であっても、ドクターはあきらめません。日本医科大学千葉北総病院に導入されたドクターヘリの、日々活躍している医者やフライトナース、ヘリの運行に携わる機長や整備士や運行管理士など、多くの人々の救命救急の熱意が伝わってくる1冊です。(男性 20代 佐倉市)

成田空港

『国際空港の24時間』 藪野正樹 著 ポプラ社 1991 (どんぐりブックス) 対象：小高～

午前4時半に、新東京国際空港(現在の成田国際空港)では、空港のオープンにそなえて、管理室の車が滑走路を走っていきます。タイヤの破片や、鳥の死がいなど、事故をひきおこしそうなものが落ちていないか点検するためです。滑走路と誘導路全体の点検をすると、走行距離は55キロにもなるそうです。眠ることなく常に活動している空港についてのノンフィクションです。(女性 30代 千葉市)

『麻薬探知犬シェリー ―奇跡の名犬―』 岡村啓嗣 文・写真 旺文社 1986

(人間と動物 愛のシリーズ)

対象：小高～

現在では広く知られるようになった麻薬探知犬。成田空港に近い税関の施設で訓練されていますが、その存在を子どもたちに知ってもらえるのにいい1冊。(女性 30代 佐倉市)

昔話

『千葉のはごろも』 あんどうみさお ぶん はまだきよし え ほるぷ出版 1976

(房総むかしむかし絵本)

対象：小低～

書店では手に入らないようですが、切り絵も美しく、千葉の昔話が紹介されていますので子どもたちに読んでもらいたいと思います。(女性 30代 八千代市)

『千葉県ふるさとのむかし話』 荒川法勝 著 暁印書館 1995

対象：小中～

『真間の手児奈のはなし』など県内各地の昔話39編を収めています。挿絵が想像力を掻き立てます。ふるさとの文化やふるさとの昔話を子どもたちに知ってもらいたいと思います。

(男性 50代 市原市)

『千葉ふるさとむかし話』 千葉興業銀行 1992

対象：小中～

千葉県の各地域の昔話を集めた本です。大きな挿絵に大きめの文字、振り仮名も振ってあるので児童にも読みやすいと思います。それぞれの話に込められた教訓も書かれていて、物語の意味や時代背景も知ることができます。巻末には千葉興業銀行会長と女優・市原悦子さんとの対談も収録されていて、興味深いです。(女性 20代 匝瑳市)

『ふしぎな笛ふき猫 一民話・「かげゆどんのねこ」より』 北村薫 文 山口マオ 絵
教育画劇 2005

対象：小中～

千葉県千倉町（現在は南房総市）に伝わる民話をアレンジしたもの。千倉在住の人気イラストレーター、山口マオさんが絵を担当、文章は、直木賞作家の北村薫さんが書かれています。民話や昔話という古めかしいイメージがありますが、お二人の絵、文章によって、読みやすい本になっていると思います。(女性 30代 船橋市)

『読みがたり千葉のむかし話』 「千葉のむかし話」編集委員会 編 日本標準 2005

対象：小中～

ぼくの住んでいる千葉県にも、こんなに「たくさんの昔話や民話が語りつがれていることを初めてこの本で知りました。周りは海と川、平野と山でかこまれて、自然がいっぱいの千葉県にその土地の言葉でとてもおもしろくてふしぎな話があり、びっくりしました。千葉県の昔を知ることでもできるととても勉強になる本でした。(男性 ～10代 銚子市)

＊『千葉のむかし話』（1973年刊）の改題です。

ものがたり

『アメンボ号の冒険』 椎名誠 著 講談社 1999

対象：小高～

作者が少年時代に住んでいた町（千葉市の花見川）での体験をもとにした「大冒険記」です。挿絵が多く、それらが具体的に詳細に描かれているのでわかりやすく、一緒に冒険の気分を味わえる一冊です。

(女性 30代 千葉市)

『オレンジ党と黒い釜』『魔の沼』『オレンジ党、海へ』 天沢退二郎 著 ブッキング
2004-2005 (fukkan.com)

対象：小高～

「オレンジ党、海へ」を手にとったのは、もう20年以上前になる。著者はあとがきで、「この物語中の地名には現実にモデルがある」と記しているとおり、作品の舞台は著者が中学生や高校生の頃に歩いていた地域のイメージが色濃く反映されており、どうやら千葉市から習志野市あたりらしい。本書の表紙裏にはそれを伺わせる架空の地図もある。独立した作品ではあるが、「三つの魔法」3部作の第3作目であるので、「オレンジ党と黒い釜」、「魔の沼」と順番に読んでほしい。著者は東京生まれだが、長く千葉市在住。詩人でありフランス文学者であり、宮沢賢治の研究者でもある。(女性 50代 市川市)

『千葉の童話』 日本児童文学者協会『県別ふるさと童話館』編集委員会 編集

リブリオ出版 1997 (愛蔵版県別ふるさと童話館)

対象：小高～

*千葉県を舞台にした創作童話や少年少女詩を集めた童話集です。

『ペロ出しチョンマ』 斎藤隆介 作 滝平二郎 絵 理論社 2000 (新・名作の愛蔵版)

対象：小高～

若いときから、斎藤隆介・滝平二郎コンビの作品の大ファンでした。四街道町(当時)に在住ということも後で知り、親しみが増し、サイン会ではドキドキしながら順番まちをしました。「ペロ出しチョンマ」は、佐倉義民伝の木内宗五郎一家の出来事を下地に作品となったともいわれています。はりつけ刑におびえて泣く幼い妹。その妹におどけ顔をみせて、その一瞬のこわさを忘れさせようとするチョンマ。胸をうたれます。(女性 60代 富里市)

『少年八犬伝 上・下』 小野裕康 著 多田ヒロシ 絵 理論社 1988 (地平線ブックス)

対象：中学～

下敷きになる物語が「八犬伝」というだけでなく、この物語の舞台も千葉県北西部らしさが出ていたと記憶しています。ハリーポッターやナルニアだけでなく、自分達の生きる町にもファンタジーがあるんだ、と子どもたちに知ってほしいです。主人公やその父が読書家で、他の物語に関する会話があるのでこの作品が気に入ると、派生して読みたい物語も次々と出てくるはず！ テロ被害に遭ってから言動統制が厳しくなっていく設定はやや古びた発想に(二次大戦中の日本状態に似て)思えましたが、9.11以降の世界には通じるものがあり、現代の人々には、己の世界にひきつけて読むことができるかと。

(女性 40代 柏市)

『千葉県の民話 一証誠寺のタヌキばやしほか一』 日本児童文学者協会 編 偕成社 1980

(県別ふるさとの民話)

対象：小高～

題名のとおり、千葉県内のむかし話を集めた本。民話MAP付き。(女性 20代 習志野市)

『千葉の伝説』 千葉県文学教育の会 編 日本標準 1981

対象：小高～

千葉県の伝説の「ヘビむこどの」というのを読みました。むすめは器量よし。男も、きりりと男らしい気品があった。娘の親は男を婿にと考え、名前や住むところを聞いたが教えてくれない。ある日策を講じ、住まいを探しあてるとそこにいたのは…。その他にも、たくさんの伝説があります。

(男性 ～10代 匝瑳市)

伊能忠敬

『伊能忠敬 一足で日本を測る一』 小西聖一 著 理論社 2003 (NHKにんげん日本史)

対象：小中～

江戸時代に17年間4万キロにおよぶ実測を基に作られ、その正確さと美しさで世界に誇れる「伊能図」とよばれる日本地図。作ったのは千葉県九十九里で生まれた伊能忠敬です。この本は忠敬が「伊能図」を完成させた経緯、忠孝を助けた当時の人々、村や藩、幕府の対応などが小学生にもわかりやすく書かれています。千葉県の歴史を知る上で是非読んでもらいたい本として推薦します。

(女性 50代 八街市)

『伊能忠敬 一歩いてつくった日本地図一』 鈴木喜代春 作 岩崎書店 1998 (フォア文庫)
対象：小中～

江戸時代に、測量のために、北海道から九州までの日本の各地を歩いた伊能忠敬の伝記です。その距離は地球を1周以上するほどだったそうです。日本地図を完成させた佐原出身の忠敬の偉大な生涯が、小学生にもわかりやすく書かれています。(女性 30代 千葉市)

『伊能忠敬』 三枝博音 著 国土社 1978 (世界伝記文庫) 対象：小高～

千葉県の有名人といえば伊能忠敬です。この本はふりがなを振ってあるので小学生から読めますが、記述がしっかりしていると思います。(男性 40代 千葉市)

『伊能忠敬 一日本列島の海岸線を歩きとおし、日本初の実測図を作りあげた忠敬の足跡一』
渡辺一夫 文 ポプラ社 2003 (徹底大研究日本の歴史人物シリーズ)

対象：小高～

この本は、千葉県で有名な歴史人物「伊能忠敬」について書かれている本です。伊能忠敬は日本地図のもととなるものを作った人物です。みずから日本を歩き測量しました。そんな伊能忠敬の一生が書かれています。伊能忠敬は千葉で有名な人物で日本地図のもとを作ったとてもすごい人なので、いろいろな人にこの本を読んで欲しいと思います。(女性 ～10代 匝瑳市)

『天と地を測った男 一伊能忠敬一』 岡崎ひでたか 作 くもん出版 2003

対象：中学～

忠敬を測量にかりたてた時代の流れや、周囲の人々まで含めた大きな視野から「伊能忠敬」を描く。図版資料も豊富に使用。子どもと大人が共有できる児童文学。(女性 50代 市原市)

ドン・ロドリゴ

『ドン・ロドリゴの幸運 一交流の始まり一』 小倉明 作 山口まさよし 絵 汐文社 2008

対象：小中～

今から400年以上も前に、御宿で実在した日本とメキシコとの交流。船が難破し、御宿に漂着した300人ものメキシコ人を助けた村人の勇気ある決断には、現代人が失い、見習わなければならない美德や献身の心が存在していることに感動します。助けられた総督ロドリゴの目を通した物語は、子どもたちに分かりやすく平易で、視覚的です。日本人として、千葉県人として、古人のすばらしい行いを学ぶためにも、小学生にぜひ、読んでもらいたいと思いました。

(男性 50代 松戸市)

『日本・メキシコ友好物語 一日本・メキシコ友好四〇〇周年記念一』 齊藤弥四郎 文 清水三枝 絵
大多喜町役場 2009 対象：小中～

日本とメキシコが友好関係を築くきっかけとなったいきさつが大変わかりやすく書かれています。絵や写真も多く小学生にも読みやすい本です。ぜひ一読して、千葉の先人の人類愛を学び、郷土をより一層好きになってほしいと思います。(女性 50代 御宿町)

ひと

『ボランティアに生きる 一地の塩の箱』をつくった江口榛一 大石勝男 作

岩淵慶造 絵 金の星社 1999 (みんなで話しあおう! にんげん発見シリーズ)

対象: 小中～

心ある人はお金を入れ、困った人は自由にそのお金を使うことができる。そんな「地の塩の箱」と呼ばれる鍵がかかっていない募金箱が全国各地に置かれ、失業者や困窮する人々を助けていた。この運動の創始者である・江口榛一氏が千葉県庁前に初めてその箱を置いたのは1956年秋のことであった。

(女性 30代 千葉市)

『石川倉次物語 一日本点字の創始者一』 永嶋まつ子 著 永嶋まつ子 2009

対象: 小高～

「石川倉次」は日本点字を考案した人です。千葉県庁に「千葉県の偉人」として掲げられています。「石川倉次」は、浜松や長南・鶴舞で育ち、長南町・柏市・千葉市・茂原市の子どもたちに勉強を教え、その後、日本点字の研究と発展に尽くし、生涯、視聴覚障害児教育に携わりました。小学生でも読めるように読みがながふってあります。(女性 20代 茂原市)

『左千夫さん』 春木千枝子 著 前嶋実 絵 成東町歴史民俗資料館友の会 1984

対象: 小高～

この本は名作『野菊の墓』を書いた、伊藤左千夫さんの生涯をまとめた本です。左千夫さんは、千葉県の成東町で生まれました。左千夫さんを知っている人は数少ないと思います。私もこの本を読んで知りました。成東町には石碑がたくさんあります。ぜひおとずれてみてくださいね。

(女性 ～10代 旭市)

『史跡と人物でつづる千葉県の歴史』 改訂新版 千葉県教育研究会社会科教育部会 編著 光文書院

1986

対象: 小高～

小中学校の先生が書いた千葉県の歴史の本です。写真や図を使っていて、小学生にもわかりやすく書かれています。巻末に索引があります。(女性 20代 千葉市)

『千葉県を築いた人びと』 千葉県教育研究会社会科教育部会 編 旺文社 1985 (郷土を築いた人びとシリーズ)

対象: 小高～

千葉県の発展につくした人物50人について、県内の小中学校の社会科の先生により書かれた本です。たくさんの人物が紹介されているので、こんな人物が千葉県で活躍していたのかという発見があります。1人当たり見開き4ページでまとめられていて、人物の年表や図、写真も多く、わかりやすいところもおすすめです。(女性 30代 習志野市)

『千葉の先人たち』 千葉県教育研究会社会科教育部会 編著 光文書院 1981

対象: 小高～

新井白石、堀田正睦、伊藤左千夫等千葉県に縁のある人々の伝記。(女性 30代 千葉市)

*千葉県出身の人物や千葉県を活躍の舞台とした人物19人を中心にとりあげ紹介しています。

『まぼろしの花がさいた ー二千年まえのハスを開花させた大賀一郎博士の六十年ー』

神戸淳吉 作 木俣清史 絵 くもん出版 1988 (くもんのノンフィクション・愛のシリーズ)

対象：小高～

縄文時代の遺跡から発掘された古代ハスの種から開花を成功させた、植物学者の大賀博士の伝記です。この遺跡は千葉市検見川にあり、地元の小中学生などの助けによりハスの種は発掘されました。日本各地で、夏になるときれいな花を咲かせるハスは博士が開花させたハスの子孫です。博士は千葉県の人ではありませんが、千葉県にゆかりの人物としてこの本を推薦します。(女性 30代 習志野市)

いきもの・自然

『校庭の1年 ー生まれて死んで、また生まれるー』 たかはしきよし 絵・文 偕成社 2003

(小さな地球)

対象：小低～

千葉県酒々井町の自然をモデルに、小学校の校庭の1年を定点観察し、校庭に育つ植物や、やってくる昆虫・動物を、精密な絵で描写しています。(女性 30代 千葉市)

*同じシリーズで、『帰り道の1年 ー生まれて死んで、また生まれるー』(2006年刊)もあります。

『たんぼのおばけタニシ』 大木淳一 しゃしんとぶん そうえん社 2009

(そうえん社写真のえほん)

対象：小低～

本書は、九十九里地域での米作りと、それに被害をもたらす外来生物(おばけタニシ：スクミリンゴガイ)の生態や、人との係りを、読みやすい平易な文章で紹介した科学絵本です。子どもから大人まで全ての世代に、ふるさとの自然の現状とあり方を考えるきっかけを提供してくれます。

(男性 40代 茂原市)

『幻のカエル ーがけに卵をうむタゴガエルー』 大木淳一 写真・文 新日本出版社

2006 (ドキュメント地球のなかまたち)

対象：小中～

養老溪谷の崖に棲むタゴガエルは、親でも30～58ミリと小さい上、崖の隙間の奥深くの、わずかな水でオタマジャクシが育つため、見つかりにくく、鳴き声は聞こえるけど姿は見えない、幻のカエルと言われています。この本は、めったに見ることのできないタゴガエルの暮らしぶりを、豊富な写真で教えてくれるとともに、こんな珍しいタゴガエルが身近に生息している千葉の自然を、いつまでも豊かなまま守りたいと感じさせてくれます。(未記入)

『命のバトンタッチ ー障がいを負った犬・未来ー』 今西乃子 著 岩崎書店 2006

(イワサキ・ノンフィクション)

対象：小高～

この本は、障がいを負った「未来」という名の柴の子犬の話です。ぼくがみんなにこの本を読んでもらいたいのは、人間のせいで右足切断、右目負傷になった柴の子犬の「未来」を知ってもらいたかったからです。「未来」は、酒々井町の馬橋に捨てられていたのを住人によって発見されました。この本には、千葉県の優しさが伝わって来るのでしょうかいします。(男性 ～10代 市原市)

『ウミホタルの歌 ―ジュニア・サイエンス―』 武中豊 文・画 新風舎 2006 対象：小高～

この本は、千葉県を舞台にした作品です。主人公のジュンは、5年生のときに行った臨海学校でウミホタルの観察をしてからウミホタルに興味を持ち、ウミホタルのことを調査する話です。ジュンたちの調べた「ウミホタル」は全国の科学コンテストに入賞し、さらに、日本代表として「ウミホタル」について発表することになり、遠い国を目指したのです。ウミホタルの性質などよくしれたのでよかったです。(女性 ～10代 館山市)

『貝殻の採集と観察』 馬場勝良 著 さ・え・ら書房 2002 (やさしい科学) 対象：小高～

小学校5年生の男の子が、江戸川から始まり、稲毛海岸、富津、館山まで貝を採取していく物語仕立ての観察本です。貝の採取方法や生態だけでなく、料理や化石などの関連話題、レポートの書き方についても押さえられています。いつの時代でも、千葉の小学生ならこれ1つで夏休みの自由研究と一夏の思い出がGETできる、夏にぴったりの1冊です。(女性 20代 習志野市)

『ぼくは貝の夢をみる』 盛口満 著 アリス館 2002 (ゲッチョ先生の博物館)

対象：小高～

この本を書いた人は、子どもの時から貝殻を集めるのが好きでした。館山市で生まれ、毎日海岸で貝を拾っては図鑑で調べ、その謎を考えたりします。大きくなるにつれ、「貝を集めているなんて“普通”じゃない、人に知られたら恥ずかしいな」と思い、生き物への興味を隠すようになります。でも、結局、自分の好きなことはやめられませんでした。「普通」って何？と考えて成長して、自分なりの答えを探していく様子が書かれた本です。(女性 20代 松戸市)

『生きている海東京湾 ―ここから日本の海がわかる―』 香原知志 著 講談社 1996

対象：中学～

千葉県の西部に面している東京湾。その東京湾の歴史やすんでいる生き物について、また汚染の現状について、多くの写真を使ってわかりやすく紹介されています。船橋漁港の漁師たち、三番瀬、谷津干潟、館山のサンゴ礁など千葉県と東京湾の関係についてよくわかり、また、海と生き物を守っていくために私たちがすべきことを考えさせられる1冊です。(女性 30代 習志野市)

『鴨川シーワールドのなかまたち ―鴨川シーワールド開園40周年記念―』

【鴨川シーワールド 編】 鴨川シーワールド 2010

対象：中学～

鴨川シーワールド開園40周年記念に発刊されました。飼育スタッフによる動物とのエピソードと動物たちの写真ともにすばらしく、頭も心も癒される1冊です。(未記入)

『子どもとふれあう千葉しぜんたんさくガイド』 松戸市理科同好会ネイチャーグループ著

丸善メイツ 1998

対象：中学～

親子で楽しみながら自然観察ができる県内のスポットが紹介されています。現地で見られる生き物や植物の写真がカラーで載っています。危険回避のガイドもあります。(女性 30代 松戸市)

『ごめんね、傷ついた鳥たちよ ―電車運転士の救助活動―』 井上こみち 著 ポプラ社 1999

(ポプラ社いきいきノンフィクション)

対象：中学～

電車とぶつかってしまう事故にあって傷ついた鳥たちをたったひとりで救いはじめた京葉線の運転士さんの、勇気とやさしさにあふれた行動を紹介したノンフィクションです。(女性 30代 千葉市)

くらし

『海に入るみこし ー房総大原の秋祭りー』 浅野陽 作・絵 古今社 2003

対象：小低～

この本は、大原の祭りについて書いてある絵本です。絵本なので、とてもきれいな絵と文章で分かりやすく、祭について説明してくれます。子供から大人まで楽しめる本だと思います。

(女性 未記入 大多喜町)

『神さまのいる村 ー白間津大祭物語ー』 かわな静 作 山口マオ 絵 ひくまの出版

2006

対象：小高～

白間津大祭が千年も続く秘密は祭りの中心に「子ども」がいることなのです。白間津に住んでいる慧と祐介は、祭りの日天と月天という大切な役に選ばれました。でも祭りの練習と、水泳の練習が重なって優勝できなくなってしまう慧、ぜん息がひどいから不安な祐介は、やろうか迷います。この二人の成長が、私たちを感動へとみちびくのです。この本をかいた人、描いた人、話のモデルは、南房総市に住んでいるのです。読んでみてください。(女性 ～10代 鋸南町)

『母と子の楽しい太巻き祭りずし作り方教室ー全40作品私にもできる手順の本ー』

改訂新版 龍崎英子 著 東京書店 2009

対象：小高～

房総の太巻き祭りずしは、千葉県を代表する”食文化の華”として知られています。この本書の構成は、基礎編実習編と教養編、伝承編の四つの編から成っています。太巻き祭りずしは、お祝いや、お祭などの晴れの日のご馳走として受け継がれてきました。また必要な道具や食材、作り方を初心者にもわかりやすく解説されています。花や動物などの作品も色鮮やかに収録されており、太巻きずしのルーツも紹介されています。この郷土が生み育んできた優れた技術を絶やさないためにも母から子へ受け継いでもらいたいと思い、この書をここに推薦します。(女性 40代 いすみ市)

『太巻き祭りずし新作フルレシピ集 ー楽しいきれいおいしいー』 龍崎英子、杉崎幸子 著

東京書店 2005

対象：小高～

房総半島の伝統料理の太巻きずしの作り方のプロセスが写真つきでのっています。基本の花のおすしのほかにも、てんとう虫やレッサーパンダ！まで、見事な切り口が現れます。家族で楽しみながら作ってみたいです。(女性 30代 松戸市)

地理・歴史

『千葉の地理ものがたり』 千葉の地理ものがたり刊行委員会 編著 日本標準 1982

対象：小高～

県内を地域別に分けて、各地域のあらまし、特徴などが書かれています。巻末には市町村ごとの説明があります。(男性 40代 四街道市)

*各市町村の説明は、出版された当時のものです。

『千葉の歴史ものがたり』 「千葉の歴史ものがたり」編集委員会 編 日本標準 1981

対象：小高～

千葉の歴史を読みやすい物語として書いた本です。巻末に簡単な人名辞典があります。

(女性 20代 千葉市)

『ぼくらの千葉県 ―郷土の地理と歴史―』 樋口誠太郎 編著 ポプラ社 1981

(ポプラ社の県別シリーズ)

対象：小高～

千葉県の歴史、政治、産業、生活について、多くの図表や写真を用いて、たいへん分かりやすくまとめてあります。巻末には、千葉県の方言や民謡も掲載してあります。(男性 40代 四街道市)

『図説千葉県の歴史』 三浦茂一 責任編集 河出書房新社 1989 (図説日本の歴史)

対象：中学～

図説日本の歴史シリーズの千葉県版。時代別、テーマ別に編集されていて、興味があるところから読んだり、調べ物をするのにも便利。写真や図版も多く、振り仮名がついているので読みやすいと思います。(女性 30代 松戸市)

『利根川物語』 高橋裕 著 筑摩書房 1983 (ちくま少年図書館)

対象：中学～

昔から千葉県に住む人々の生活に関わりが深い利根川。この利根川を上流から下流へと下りながら、それぞれの地域に関する話題が収められています。利根川全体像、その歴史的発展、そこで苦悩し活躍した人々等について紹介されています。(女性 30代 千葉市)

県民の本棚～であい、ふれあい「ちばの本」～〔高校生向け〕

「県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』～」で推薦された本の中から、高校生の読書活動推進に資する本の一部を紹介します。

- ・「県民の本棚」の詳細は千葉県立図書館ホームページをご覧ください。
- ・本文は「県民の本棚」に寄せられた「推薦の理由」から抜粋しました。＊は図書館で加えたものです。

物語

『あぼやん』 新野剛志 著 文藝春秋 2008

「あぼやん」とは出世コースを外れた空港勤務のこと。旅行代理店で、女性がメインの空港にとばされた「あぼやん」遠藤のおはなし。空港の様々な仕事がよくわかる一冊。もちろん舞台は成田空港です。
(女性 20代 習志野市)

＊続編に『恋する空港』（2010年刊）があります。

『埋火 一謙映院幾千子と堀田正睦一』 秋本喜久子 著 新人物往来社 2007

幕末の佐倉藩主・堀田正睦とその義母幾久子が、貧窮する佐倉藩財政を立て直し、幕府の要となり開国に携わっていく過程を描いた物語。江戸から佐倉の国元へ下がる際の千葉の風景描写や佐倉高校の前身である藩校の始まり、佐倉順天堂の開祖・佐藤泰然の人柄なども描かれている。現在の佐倉の様子を知らない人でも、主人公である二人の微妙な関係とその時代の女性の立場の複雑さは十分楽しめます。
(女性 40代 佐倉市)

『海を感じる時』 中沢けい 著 講談社 1980

著者は千葉県立安房高等学校卒業生。1978年、在学中に書いたこの作品で「群像新人文文学賞」を受賞。不安定で多感な少女期の異性体験と母と娘の対立をみずみずしい感性で鮮やかにとらえた作品。館山の海に囲まれて育った著者。女性の胎内の叫び声が、深い海の底から聞こえてくるようだ。
(男性 50代 千葉市)

『永遠の出口』 森絵都 著 集英社 2003

この作品は、千葉・総武線を舞台にした小説。一人の少女が大人になるまでの総武線での様々なエピソードが語られている。自分の身の回りでも起こっていたような事件の数々もあり、青春時代をも思い出すようなこの主人公が、何気なく生活していた日々から大人へと成長する。その大人となった今の到着点を確認し、さらに未来へと続くのを確認する。出しゃばりすぎず、ポジティブな力を持った小説。
(女性 30代 八千代市)

『定本岳物語』 椎名誠 著 集英社 1998

少年時代を千葉県で過ごした著者と息子・岳との物語です。岳少年の子ども特有のまっすぐさがほほえましく、なんだか懐かしさも感じます。そして、本を読んでいると、自分もすぐそばで成長を見守っているような気持ちになります。また、着かず離れずの絶妙な親子の距離にもあこがれます。
(女性 40代 銚子市)

＊「岳物語」を加筆・再編成し、あとがき42枚、“岳”本人のエッセイ、生原稿の未発表短編を収録しています。

『天国までの百マイル』 浅田次郎 著 朝日新聞社 1998

千葉県を舞台にした作品で、知っている地名などが出てきて親近感を持ちました。内容についても主人公の母親への思いが強く、思わず涙が溢れそうな場面がありました。主人公の今後についても、余韻のある終わり方で心に残りました。(女性 40代 木更津市)

『南総里見八犬伝』 曲亭馬琴 【作】 石川博 編 角川学芸出版 2007

全国的に有名な千葉県を舞台にした作品です。とてもスケールの大きな話で「これが江戸時代に書かれたのか」と驚いたのをおぼえています。「八犬伝」は、様々な出版社から子ども向けのやさしいものや短くまとめたものも出ていますが、これは、幅広い年代の人が自分にあったものとして読めるのでお勧めです。(女性 ～10代 勝浦市)

『野菊の墓』 伊藤左千夫 著 新潮社 1968

作者の伊藤左千夫は千葉県山武郡の農家で生まれた明治後期を代表する小説家の一人です。本書は野菊の咲乱れる千葉県の田園風景を背景に描かれており、その素朴な風景がお互いに想い合う2人を取りまき、余計に悲しい出来事を引き立てています。また、主人公を視点としているのでとてもはなしに入りこみやすいです。とても切ない千葉県を舞台にくりひろげられた純愛、この感動を多くの人に読んでほしいです。(女性 ～10代 夷隅郡大多喜町)

『四千万歩の男 全5巻』 井上ひさし 著 講談社 1992-1993

九十九里で生まれ、佐原の商家の婿養子となり代をなした伊能忠敬。第二の人生を子午線一度の長さを正確に測るため寛政12年(1800年)蝦夷に向けて一行を従え出発。毎日、五歩で二間、56歳から72歳までの17年間に地球1週をはるかに越える距離を踏破し日本地図を作り上げた。毎日の簡単な記録しか残されてはいないが、井上ひさしの手によって、歴史小説としても時代小説としても一級の読み物となっている。(男性 50代 千葉市)

文学案内

『かくれみの街道をゆく -正岡子規の房総旅行-』 関宏夫 著 崋書房出版 2002

正岡子規が明治24年3月25日から4月2日にかけて房総横断旅行をした行程を「かくれみの街道」と名付けた。資料が充実しており、子規本人の青春譜として、また明治24年の世相、房総を読んだ子規自身の俳句等、千葉ゆかりの伊藤左千夫や高浜虚子、浅井忠などのことにも触れ、千葉の歴史満載の本である。(女性 50代 茂原市)

『書でめぐる房総文学の旅』 幕田魁心 書 笹生浩樹 写真・文 木耳社 2010

私自身、千葉で生まれ育ってきた一人ですが、全く知らなかった文学の世界がこの千葉県にも多く残っていることに気付き、感動しましたので、千葉県民である若者世代の方から、懐かしく感じることでござるご年配の方まで、幅広くの方に見ていただける本ではないかと思いました。私も書を学んでいますが、幕田先生の表情豊かな書と文学・写真がうまく調和していて、忙しい毎日に癒しをもたらしてくれます。最後のページにある、所在地の資料を参考に、これから千葉県内をめぐって、より千葉県の魅力を発見したいと思うとともに、芸術の秋に向けておすすめの1冊として推薦させていただきます。

(女性 20代 袖ヶ浦市)

『漱石の夏やすみ ―房総紀行『木屑録』― 高島俊男 著 筑摩書房 2007

「木屑録(ぼくせつろく)」は明治22年、学生だった漱石が23歳の夏やすみに友人4人と房総旅行に出掛け、その見聞を記した漢文による紀行文です。第52回読売文学賞「紀行・随筆賞」受賞作品でもあり、漢文で書かれた漱石の足跡や見聞の感想が分かりやすく解説されています。さらに、親友正岡子規の評価や、興味深い事実の数々もエピソードとともに解説されていることから、大学生や一般だけでなく、高校生が国語で学習する「こころ」の中に出てくる房総旅行の事実などがわかるので、高校生にも読んで貰いたい図書です。(女性 20代 市川市)

『ふさの国文学めぐり』 再改訂版 千葉県高等学校教育研究会国語部会 編 富士出版印刷 2010

本県高等学校の国語科の先生方による本書は、我が郷土千葉への郷愁と誇りを喚起させてくれる好著である。本県ゆかりの作家たちのエピソードや作品群、現代に視点を置いた新たな文学散歩のモデルコースの併記など、どのページをとっても興味がつきない。郷土を語るとき、文学は切り離せない大切な要素の一つであり、いにしえの昔から文学のふるさととしての房総が存在していることを改めて実感することができる著作であり、ガイドブックとしても優れた一冊である。(男性 50代 市川市)

エッセイ

『海風通信 ―カモガワ開拓日記― 村山由佳 絵と文 集英社 1996

夏、遊びに来た鴨川の海で、素潜りを楽しんだとたん鴨川の海が好きになり、引っ越して来てしまった著者。房州の豊かな風土、山あり、海ありの鴨川で、著者自身も畑を耕し作物を作る。海釣りをして楽しむ。自身で作った作物や釣った魚や花などが、イラストや写真で紹介されている。房州人の気さくで温かい人柄などが書かれている。住んでみたいなと思わせる一冊です。(女性 50代 銚子市)

『やきにく井、万歳！ ―おやじの背中、息子の目線― 佐藤洋二郎 著 松柏社 2006

おやじと息子について語ったエッセイ集。八千代市在住の小説家の著者が、3歳から16歳にかけての息子さんとの日常の関わりを、面白おかしく語っている。「神々廻(ししば)」という地名が読めるかと息子に聞かれ読めないでいると、じゃあ行ってみようと思わせると出かけていく二人。二人の掛け合いが面白い。(男性 50代 市原市)

スポーツ

『あの夏、西の風が吹いた ―銚子西高野球部の青春物語― 小林信也 著

ベースボール・マガジン社 2008

銚子市立西高等学校。平成20年3月銚子市立銚子高等学校と統合し、その名がなくなった学校です。創立6年目の昭和56年銚子商との県大会決勝を勝ちぬき、甲子園に出場という快挙を成し遂げました。学校は30年余りという短さで幕を閉じてしまいましたが、この本を読み、新しい学校で一つ一つ作り上げた野球部、そして、夢中で部活動に取り組んだ生徒の姿を知りました。多くの人に銚子市立西高等学校が、あったことを知ってほしいと思います。(女性 40代 銚子市)

『君ならできる』小出義雄 著 幻冬舎 2000

この本は、千葉県出身の陸上指導者の小出義雄さんの書いた本です。高橋尚子選手を中心に有森選手や千葉真子選手など小出監督の育成したトッププレイヤーのあり方や成長の過程などをわかりやすく示してあります。スポーツ関係者の人だけでなく様々な人に読んでもらいたい一冊です。

(女性 ～10代 千葉市)

『車椅子バスケのJリーガー ―4度目のパラリンピック日本代表選手を目指して―』 京谷和幸 著 主婦の友社 2010

ジェフユナイテッド市原所属のサッカー選手として将来を嘱望されながら、事故で半身不随となった後、リハビリの一環で車椅子バスケを始めるようになり、千葉ホークスに所属し活躍する一方、パラリンピック日本代表にも3度選出された、京谷和幸さんとそれを支えた妻陽子さんの話。(未記入)

『心のゴールにシュート! ―千葉盲学校寄宿舎サッカーチーム「ペガサス」の挑戦―』

鳥飼新市 文 篠利幸 写真 第三文明社 1994

「ペガサス」はもう解散したようですが、ブラインド・サッカーは今やワールドカップが開催されるほどになりました。日本代表には県庁職員も選出されています。(未記入)

*千葉県立千葉盲学校寄宿舎のサッカーチームで全国初の盲学校サッカーチームの軌跡を描いた感動実話。

『房総白球伝 ―野球王国ちばの100年―』 和田正樹 著 崙書房出版 1992

明治時代半ば、千葉県内で本格的に野球が行われるようになってから、約100年の間、県内で野球に情熱をそそいだ人々のエピソードが多く紹介されている。千葉県は代表校が甲子園で何度も優勝を果たし、多くの野球選手を輩出しているが、それは、多くの人々や無名の球児達の積み重ねた歴史のもとにあるのだと感じさせられる1冊である。若き日の長嶋茂雄や掛布雅之についてのエピソードも載っていて、特に野球が好きな人にはオススメである。(女性 30代 習志野市)

ひと

『ではまた明日』 西田英史 著 西田裕三 編 草思社 1995

私達と同じ高校生で腫瘍が見つかり、その病魔と明るく前向きに戦いつづける姿に勇気をもらいました。大学受験だけでも大変なプレッシャーでくじけそうなのに、病気と闘い、受験に向かっていく精神力はすごいと思いました。ぜひ、この本から、困難にむかっていく力をもらってください。

(女性 ～10代 香取市)

『何とかなるさ! ―ママは宇宙へ行ってきました―』 山崎直子 著 サンマーク出版 2010

ある探査機の劇的な帰還をきっかけに広まりつつある「宇宙ブーム」。その中で千葉県は、飛行機が空に飛び立ってゆく成田国際空港や初日の出が日本一早い犬吠埼という地があり、またある意味ではロケット発祥の地でもあるちょっと宇宙に近い県です。そんな千葉県育ちの宇宙飛行士、山崎直子さんが2010年4月、実際に宇宙へ行き無事帰還しました。山崎さん執筆のこの本は、読者に夢を与え宇宙を通して千葉県を知ってもらえる一冊です。(女性 ～10代 香取市)

『弁護士渥美雅子』 板倉久子 著 理論社 1999

千葉県初の女性弁護士です。生き方として高校生にすすめている一冊です。

(女性 40代 習志野市)

*渥美さんは本書で「若い世代に今までの価値観にとらわれず、フレキシブル(柔軟)な頭とセンシティブ(敏感)な心を持って、21世紀の騎手として活躍してください。」とエールを送っています。

歴史

『千葉県の戦争遺跡をあらく 一戦跡ガイド&マップー』 千葉県歴史教育者協議会 編 国書刊行会 2004

幼い頃、父から千葉駅周辺が戦火に包まれたことをよく聞かされましたが、県内にこれほど戦争遺跡があるとは知りませんでした。県内に残る戦跡を18コースに分け、写真・遺構図・遺物図などを豊富に掲載して、当時の様子を伝えてくれます。学校の歴史の授業で調べ学習をする際にも役立ちそうです。

(男性 30代 香取郡神崎町)

『千葉県の歴史一〇〇話』 川名登 編著 国書刊行会 2006

下総・上総・安房の3国を包む千葉県に、生活を続けてきた人びとの歴史を振り返り、100史話を収録した郷土歴史入門書。歴史を振り返ることで多くの示唆を与えてくれる。(男性 60代～ 千葉市)

『千葉の道千年物語 一房総の歴史街道を旅する一』 山本光正 監修 千葉日報社 2002

一言で道といっても、そこにはたくさんの歴史がある。道とは、「道」＝「未知」であり、これからの「未来を知る」ためのものではないだろうか？新たな「道」を知るために房総の歴史街道を寄り道してみてはいかがでしょうか？(男性 20代 東金市)

『ドン・ロドリゴの日本見聞録 一スペイン人の見た400年前の日本の姿一』

ドン・ロドリゴ [著] 安藤操 意訳・解説 たにぐち書店 2009

約400年前に日本を訪れたスペイン人、ドン・ロドリゴによる見聞録を読みやすく編集。大多喜城から江戸・駿府城を経て、京都を観光した際の道中の見聞や、家康とのやりとり、当時の日本の習俗などの報告を意識し解説を付した一冊。江戸時代初期に日本を訪れた外国人と房総との接点や外国人が見た当時の日本及び日本人を知る一冊として推薦する。(男性 20代 市川市)

その他

『がんばれ！銚子電鉄 一ローカル鉄道とまちづくり一』 向後功作 著 日経BP社 2008

銚子の一部、たった6.4kmを走る銚子電鉄。小さな所領がゆっくりゆっくり走る姿は、忙しい毎日を忘れホッとさせてくれます。そんな銚子電の歴史や、ローカル鉄道についてさまざまなエピソードを共に綴られています。特に電車の修理代がなく、存続の危機に直面したときのエピソードは人の心の暖かさ、守りたいという社員の熱い思いに出会い、勇気と元気をもらえました。(女性 50代 香取市)

『旬・菜・記 一千葉はうまい一』 高山修一 著 斎書房出版 2009

名のごとく、千葉の食材を語ります。知っているようで知らない野菜の産地などもわかって楽しめます。(女性 50代 八千代市)

*首都に隣接していながら、千葉県は豊かな山野河海の幸に恵まれ、生産量日本一の産物が多くあります。まさに食材の宝庫である千葉県の旬の味覚が伝わってくる一冊です。

『世界一空が美しい大陸南極の図鑑』 武田康男 文・写真 草思社 2010

著者は、第50次日本南極地域観測越冬隊員として南極で過ごした高校の先生です。調査研究を続ける中、業務以外の限られた時間に撮影したという貴重な写真は、どれも素晴らしく感動的です。それらの写真を用いて、この本では自然現象の不思議を分かりやすく説明しています。ぜひ多くの方に読んでほしい一冊として、この本を推薦します。(未記入)

県民の本棚事業報告書

～であい、ふれあい「ちばの１００冊」～

平成２３年８月発行

千葉県立図書館編集・発行

（県民の本棚事務局：千葉県立西部図書館）

〒２７０－２２５２ 千葉県松戸市千駄堀６５７－７

TEL ０４７－３８５－４１３３ FAX ０４７－３８４－１３７１

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp>

